

金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書

令和2年3月

金沢大学附属図書館

はじめに

本報告書は、平成 27（2015）年度から平成 30（2018）年度までの 4 年間の金沢大学附属図書館の活動に対する自己点検・評価の結果です。本附属図書館としては、平成 15 年度から 20 年度まで、21 年度から 26 年度までに続く 3 度目の自己点検・評価です。前回までの自己点検・評価の期間は、金沢大学にとって学域・学類制という大変革であると同時に、中央図書館におけるラーニング・コモンズの設置に代表される、図書館機能の変化という激動の時期でした。

今回の評価期間では、図書館機能の変化は依然続き、図書館機能の外的進展である学修支援体制の強化、グローバル化への対応、学術情報のオープンアクセス化があたかも中心的役割を担うごとく求められた期間でした。まさに本来の図書館機能とは何かを改めて問わざるを得ない劇的な機能変化でした。アッシリア帝国時代に生まれて二千数百年、アレクサンドリア図書館に代表される学術の殿堂としての機能を深化させつつ、『静謐空間』とは異なる発想の『勉強の場』（本附属図書館第 1 回目の自己点検・評価報告書における「あるべき図書館の姿」）を追い求める期間でした。今回も自己点検・評価では、学生に対する「あるべき図書館の姿」を模索する学修支援を独立した評価項目として設け、学術情報のオープンアクセス化に対応するため情報資源・資料の自己点検・評価を紙資料と電子資料に分けより厚みのあるものとししました。また、従来の自己点検・評価の項目順を図書館が担う本来の機能に関する項目を優先するよう見直しました。

今回の自己点検・評価でも文部科学省のスーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業に採択されたことによる変革の成果について、学修支援の評価項目で「状況」にすでに萌芽が見られますが、次回の自己点検・評価では成果を反映したものになることを期待しています。本評価期間に「大学図書館未来構想“知と創造の学修館”―常に先進的で、心地よい空間の創出―」を策定しました。その未来構想では、「人工知能等の新技術がいかに進展しようとも、人と人との直接的な交流による学びの場は不可欠」、「未来図書館は、あらゆる社会の変化に適応できる柔軟な図書館へと進化すべき」のヴィジョンが謳われています。次回の自己点検・評価では、今回の評価期間では十分に達成されていない構想が、今後の新展開のなかで実現されていることを期待しています。

本附属図書館の現状の正確な把握と課題の摘出・整理は、未来図書館構想を実現するためにも極めて重要な作業です。今回の自己点検・評価はそうした認識のもとに行われました。本報告書がそうした役割に適うかどうかを確認いただければ望外の喜びです。

令和 2 年 3 月

附属図書館長 岩 見 雅 史

目次

はじめに	1
目次	2
自己点検・評価報告書中の数値・データについて	4
評価報告	
0 総評	5
1 組織・管理・運営	7
1-1 将来構想・理念等	
1-2 運営組織	
1-3 事務組織と職員	
1-4 図書館業務用システム等	
2 情報資源・資料	13
2-1 資料の収集と保存の方針	
2-2 図書の整備	
2-3 雑誌（紙資料）の整備	
2-4 電子ジャーナル及び二次資料データベースの整備	
2-5 金沢大学学術情報リポジトリ	
2-6 目録情報の電子化	
2-7 コンテンツの電子化	
2-8 各種コレクションの整備	
3 サービス	25
3-1 開館日・開館時間	
3-2 来館利用及び貸出冊数	
3-3 図書館職員が行う利用者サービスの質	
3-4 ILL（他大学等図書貸借及び文献複写）	
3-5 イベント	
3-6 広報	
3-7 利用者満足度	
4 学修支援	33
4-1 情報リテラシー教育	
4-2 学修支援制度	
4-3 学修環境	
4-4 学生との協働	
4-5 関連イベント	

5. 地域連携・社会貢献	・ ・ ・ ・ ・ 41
5-1 県内公共図書館等との連携	
5-2 一般市民の利用	
5-3 所蔵貴重資料等の提供	
5-4 イベント等	
5-5 環境への取り組み	
6. 経費	・ ・ ・ ・ ・ 46
7. 施設・設備	・ ・ ・ ・ ・ 51
7-1 施設・設備	
7-2 情報・ネットワーク関連機器の設備・機器等	
自己点検・評価ワーキンググループ	・ ・ ・ ・ ・ 58
参考資料	・ ・ ・ ・ ・ 59

自己点検・評価報告書中の数値・データについて

- ・経年変化を比較する事項については、原則として平成 26～30 年度の数値・データを使用した。
- ・他機関等との比較については、平成 29～30 年度の数値・データを使用した。

0 総評

本報告書では、評価項目ごとに状況を示し、評価・分析を行った。評価における評語は次のとおりである。なお、各評語は前回と異なり、第3期中期目標期間の教育研究の状況についての現況分析における段階判定の区分表の記述に沿うものとした。また、評価項目を4段階で判定する際には、状況进行分析し、優れた点や特色ある点を要素とし、記載内容を総合的に判断した。

評語	内容
特筆すべき高い質にある	取組や活動、成果の状況が非常に優れていると判断される
高い質にある	取組や活動、成果の状況が優れていると判断される
相応の質にある	取組や活動、成果の状況が相応であると判断される
質の向上が求められる	取組や活動、成果の状況が不十分であると判断される

各評語に該当する評価項目は次のとおりである。

評語	該当する評価項目
特筆すべき高い質にある	地域連携・社会貢献
高い質にある	組織・管理・運営／情報資源・資料（紙資料）／サービス／施設・設備
相応の質にある	情報資源・資料（電子資料）／学修支援／経費
質の向上が求められる	該当評価項目なし

「特筆すべき高い質にある」評価項目には、前回の自己点検・評価同様、「地域連携・社会貢献」が該当する。本学の必ずしも利便性の高いとはいえない立地条件等を考えると、「地域連携・社会貢献」は十分実施できていると評価される内容である。県内公共図書館等との連携において、相互貸借及び文献複写は依頼・受付ともに高い件数で推移し、平成28年度の受付はこれまでの最多の件数であった。一般市民等の入館者数、貸出冊数も高い数値で安定しており、地域に貢献している。地域や社会に対するイベントも多く開催され、小中学生に対しても大学図書館で学ぶ機会を提供している。

「高い質にある」評価項目では、これらの項目の状況は総体的に見て問題なく動いているといっており、課題を解決すべき方向性も明確である。一方、「組織・管理・運営」については、前回の外部評価報告書で指摘された職員数減等、業務用システム面での課題が残っている。「情報資源・資料」のうち紙資料でも、図書館としての基本理念や中長期ビジョンに基づいて資料の収集、保存が図られているが、保存書庫における保存方法等については改善が必要な部分も見受けられる。サービスについても、全体としては新しい取り組みを積極的に行っており、その成果が出ていると評価さ

れるが、運営経費等の問題も考慮した上で、さらなる向上の検討が課題である。「施設・設備」でも、カフェ設置、湿度管理の改善、空調・トイレ・エレベーター・学修環境・設備の老朽化に対する改修・補修が進んでおり評価されるが、館内設備への要望は多く検討が必要である。

「相応の質にある」評価項目では、質の維持はされているけれども、高度な機能を必要とする大学図書館に似合った内容の課題が残っている。「情報資源・資料」のうち電子資料では、購読価格上昇など予算的な制約があるものの、一層の向上を図ることが課題である。とくに本学附属図書館の未来像を考えると、ユーザーの利便性向上や書架狭隘化解消のために、蔵書等の電子資料化への転換が求められる。「学修支援」では、外部評価報告書で指摘された事項についても着実な改善が図られ、支援制度の利用件数の伸長が達成され、LA（ラーニング・アドバイザー）及びLeCIS（留学生ラーニング・コンシェルジュ）の定着が認められる。学修環境面においても、ラーニング・コモンズの増設により利用数の着実な増加、利用者における高い利用満足度が得られている一方、アクティブラーニングに対応した環境整備の維持とともに、学生ニーズをとらえた学修環境改善の検討が急がれる。学生との協働において、LA・LeCIS との連携や、学修支援関係部署とのネットワーク化の余地が残されている。「経費」では、主な財源である基礎経費の毎年の削減により、年を追うごとに減少している。その中で、光熱水料は、空調設備の更新や照明のLED化等節約の取り組みを行っているものの、単価上昇の影響で逆に増加傾向にあり、運営費圧迫の要因となっている。大学の財政状況に大きな改善が期待できない状況を考慮すると、根本的な課題解決には大規模な外部資金の導入や公平感の高い受益者負担制度の新しい仕組み構築などの抜本的対策を模索する必要がある。令和元年度に創設した金大図書館時習基金は、その模索の一つである。

以上、個別の評価項目ごとの評価を総合すると、この4年間の本附属図書館の活動全体としての評価は「高い質にある」とみなしてよいと思われるが、「情報資源・資料（電子資料）」、「学修支援」、「経費」については「相応の質にある」であり、個々の分析・評価コメントにも指摘があるとおり、改善の余地や残された課題も少なくはないと判断される。課題について、附属図書館が一義的には対応すべきであるが、文部科学省における金沢大学全体の評価や大学全体のなかにおける附属図書館の位置付けなどとも関わるため、自助努力だけでは限界がある。まずは課題を認識して各方面に働きかけていくことが重要といえよう。

1 組織・管理・運営

1-1 将来構想・理念等

【状況】

- 平成 28 年度に作成された「YAMAZAKI プラン 2016」(資料 1)において、「グローバル社会の中核的リーダーとして活躍する「金沢大学ブランド」人材の育成－VisionⅢ 入学から卒業までの徹底した学生支援」として、「附属図書館における学修支援機能の強化」が挙げられ、「世界と地域との環流による社会貢献・社会実装－VisionⅧ 持続的社会の実現に向けた社会貢献」として、「図書館・資料館所蔵資料の公開及び利用促進並びに次世代型「未来図書館」構想の策定」が挙げられた。
- 平成 29 年度に「大学図書館未来構想“知と創造の学修館” 一常に先進的で、心地よい空間の創出－」(資料 2)を策定した。
- 平成 30 年度に作成された「新 YAMAZAKI プラン 2018」(資料 3)において、「グローバル社会の中核的なリーダーとして活躍する「金沢大学ブランド」人材の育成－VisionⅤ 入学から卒業までの徹底した学生支援」として、「附属図書館が有する学修支援機能の強化」が挙げられ、「世界と地域との環流による社会貢献・実装－VisionⅧ 大学が有する知的資源等へのアクセシビリティの向上」として、「所蔵資料の公開・利用促進及び「未来図書館」構想の具体化」が挙げられた。

1-2 運営組織

【状況】

- 「平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価報告書」(資料 4)以降、運営組織上の大きな変更はなく、中央図書館、自然科学系図書館、医学図書館(保健学類図書室を含む。以下同じ。)の 3 館体制で運営している(図 1-1)。
- 金沢大学附属図書館規程第 5 条の規定に基づき、附属図書館には館長及び副館長を、医学図書館には分館長として医学図書館長を置いている(資料 5)。
- 副館長は平成 27 年度まで 1 名、平成 28 年度から 2 名を置いている。
- 「平成 27 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」(資料 6)では、「附属図書館長が 3 館の館務を掌理し、医学図書館長が医学図書館の館務を掌理する規程となっており、ガバナンスの観点から一考を要する」と指摘した。その後規程の改正等はないが、運営組織としては図 1-1 のとおり、綿密な連絡体制のもとに一元化している。
- 金沢大学附属図書館規程第 7 条の規定に基づき、附属図書館の運営に関する重要事項を審議するため、図書館委員会を設置している(資料 5)。

- 医学図書館は、金沢大学医学図書館運営部会内規に基づき、医学図書館運営部会により運営している。
- 金沢大学図書館委員会規程第 7 条において、「専門又は特定の事項を審議するため、作業部会等を置くことができる」としており（資料 7）、表 1-1 のとおり年度毎に必要な部会等を設置している。

1-3 事務組織と職員

【状況】

- 職員の構成及び職員数の推移は表 1-2 のとおりである。
- 事務組織は情報部に属し、情報企画課の総務係、図書情報係、雑誌・電子情報係及び情報サービス課の中央図書館係、相互利用係、自然科学系図書館係、医学図書館係が附属図書館の職員として、図書館業務を所掌している。「平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価報告書」（資料 4）以降、運営組織上の大きな変更はない（図 1-2）。
- 平成 30 年 5 月 1 日現在の附属図書館の職員の現員数は、合計 46 名（うち非常勤職員 23 名、時間外学生アルバイトを除く。）である。
- 図書、雑誌、電子ジャーナルの契約、受入、目録作成に関する業務は情報企画課に一元化している。
- 図書系以外の職員も配置されており、大学職員としてより広い視野を持った職員を確保できている一方で、目録作成や資料提供に必要な専門知識を持った職員が減り、一部の業務で支障が出ており、業務量の増大に対応できていない。
- 「平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価報告書」（資料 4）では、専門職員数が減っていることによる、大学の目標への対応に支障をきたすことへの懸念が示され、「人数に加えて職員の能力向上のための方策も検討」との言及があった。引き続き、各種研修への参加を促している。
- 国立大学図書館協会の活動への参加、各種講習会への講師派遣など、館外の図書館活動にも貢献している（表 1-3）。

1-4 図書館業務用システム等

【状況】

- 図書館業務に活用しているシステム等の更新状況は、表 1-4 のとおりである。
- 図書館業務用システム NALIS の機能であるオンライン蔵書目録（Opac plus）により、蔵書検索だけでなく、大学が契約している電子ジャーナルのタイトルや機関リポジトリのコンテンツを同時に検索することが可能となっている。

- 図書館が提供する様々なリソースを、同一のインターフェイスで検索できる高度な統合検索(通称ディスカバリーサービス)の導入は実現していない。
- 利用者アンケートでは、「オンライン蔵書目録(Opac plus)は、使いやすいですか」という設問に対し、「満足」「やや満足」と回答した割合は、42%(前回58%)であり、前回よりも低くなっている。また、利用したことがないと回答した割合は、17%(前回20%)であり、前回よりも低くなっている(資料8・問14)。
- 利用者アンケートでは、オンライン蔵書目録(Opac plus)に関する自由意見が寄せられた(資料9【1-4】)。
- 平成29年3月に図書館業務用システムNALISを更新し、クライアントサーバ版からWeb版へ移行したことにより、本学が推進している事務用端末のシンクライアント化の方針に則り、レンタル金額が安価なシンクライアント端末で作業することが可能となった。
- 教職員による「図書の購入、文献複写・相互貸借」の発注依頼データ入力は、「物品」の発注依頼データ入力を行う「予算執行支援システム」とは別に、図書館業務用システムの「図書館オンラインサービス」上で行われている。発注依頼データ入力段階でのシステム間連携がなされていないことから、システム的には部局経理責任者の事前承認を得ることができない状況であることについて、「平成27年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」(資料6)では「改善する余地がある」としたが、その後検討は行っているものの、システム改修に費用がかかる等の問題から改修には至っていない。
- 平成29年11月に機関リポジトリのプラットフォームをJAIRO Cloudに移行したことにより、システム管理業務は減少し、メタデータ・コンテンツ管理業務に注力することが可能となった。

【分析・評価】

評価：□特筆すべき高い質にある ■高い質にある □相応の質にある □質の向上が求められる

分析・評価コメント：

附属図書館の将来構想・理念等については、「大学図書館未来構想“知と創造の学修館”―常に先進的で、心地よい空間の創出―」(平成29年12月)、「YAMAZAKIプラン2016」(平成28年10月)、「新YAMAZAKIプラン2018」(平成30年4月)において明確に定め公表している。とくに最新プランでは、「入学から卒業までの徹底した学生支援」として「附属図書館が有する学修支援機能の強化」、「大学が有する知的資源等へのアクセシビリティの向上」として「所蔵資料の公開・利用促進及び「未来図書館」構想の具体化」をヴィジョンに掲げ、実現に向けて実施している。

運営組織については、各学問分野の学生・教職員が利用しやすいよう、中央図書館、自然科学系図書館、医学図書館の3館で、各分野にあったサービスを提供している。「平成27年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」(平成27年11月)では、「附属図書館長が3館の館務を掌理し、医学図書館長が医学図書館の館務を掌理する規程となっており、ガバナンスの観点から一考を要す

る」と指摘した。改善のため、平成 28 年度より副館長を複数体制とし、また、平成 30 年度からは附属図書館長打合せを原則毎月開催し、館長・副館長・医学図書館長・事務組織の情報共有、目的共有の一体化を図り、ガバナンスを強化した。

運営については、全学組織の図書館委員会で重要事項を審議し、必要に応じて部会、WGを設置し、機動的かつ効率的に運営している。医学図書館でも医学図書館運営部会を設置してサービス対象部局の特色を加味した運営を行うなど利用者の目線に立った柔軟な運営を維持している。

事務組織は情報部に属し、情報企画課及び情報サービス課の職員が図書館業務を所掌している。

「平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価報告書」（平成 28 年 3 月）では、専門職員数が減っていることによる、大学の目標への対応に支障をきたすことへの懸念が示され、「人数に加えて職員の能力向上のための方策も検討」との言及があった。平成 26 年度以降、常勤職員は 1 名減（非常勤職員が 5 名増）であり、職員数を確保している。一方、目録作成や資料提供に必要な専門知識を持った司書は同数（常勤に限っては 2 名減）で、増大する業務量に追いつかないのが現状である。国立大学図書館協会の活動や各種研修への参加、各種講習会への講師派遣など、職員のスキルアップと効率化により、増大する業務量に対応している。

図書館業務用システム NALIS については、クライアントサーバ版から Web 版へ移行（平成 29 年 3 月）した結果、安価なシンクライアント端末で作業することが可能となった。加えて、機関リポジトリ KURA のプラットフォームも JAIRO Cloud へ移行（平成 29 年 11 月）したことにより、システム管理業務は減少した。一方、「平成 27 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」でも「改善する余地がある」と指摘した「図書の購入、文献複写・相互貸借」の発注依頼データ入力、依然として「図書館オンラインサービス」上で行われており、発注依頼データ入力段階では、「予算執行支援システム」との連携がなされていない。検討は行われているものの、システム改修に費用がかかる等の問題から未だ改修には至っていない。さらに、利用者アンケートでは、オンライン蔵書目録（Opac plus）に関する検索機能等の改善要望が多く寄せられ、業務用システムの改善が引き続き求められる。

図 1-1 運営組織図（平成 30 年 5 月 1 日現在）（「図書館概要 2018」を基に作成）

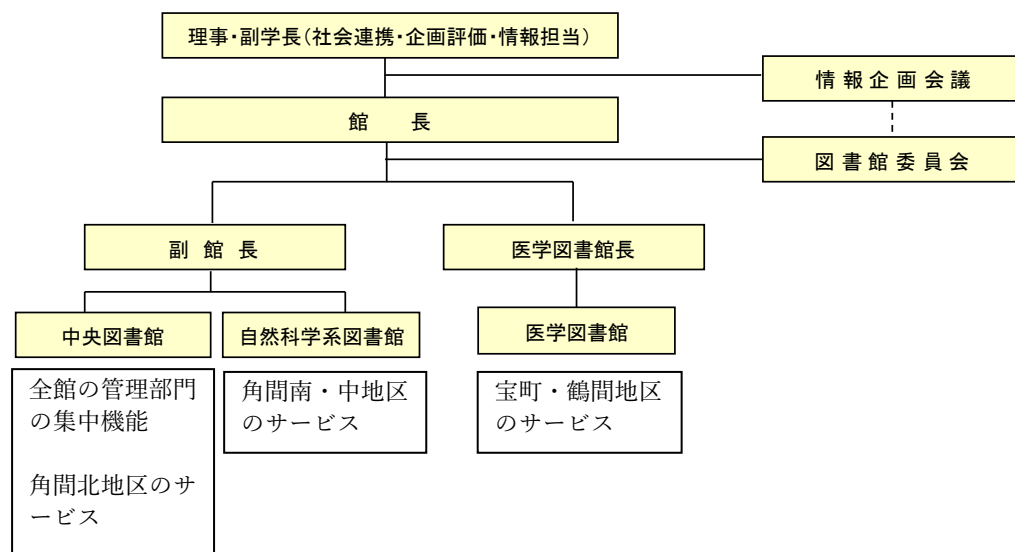


表 1-1 図書館委員会の下に設置した作業部会等

	H26	H27	H28	H29	H30
学生用図書選定部会	●	●	●	●	
角間地区図書選定部会					●
学術情報基盤整備WG	●	●	●	●	●
附属図書館自己点検・評価WG	●	●			●
環境学コレクション整備WG	●	●	●	●	
ラーニング・コモンズ運営部会	●	●			
学修支援検討部会			●	●	●
オープンアクセス方針検討WG				●	

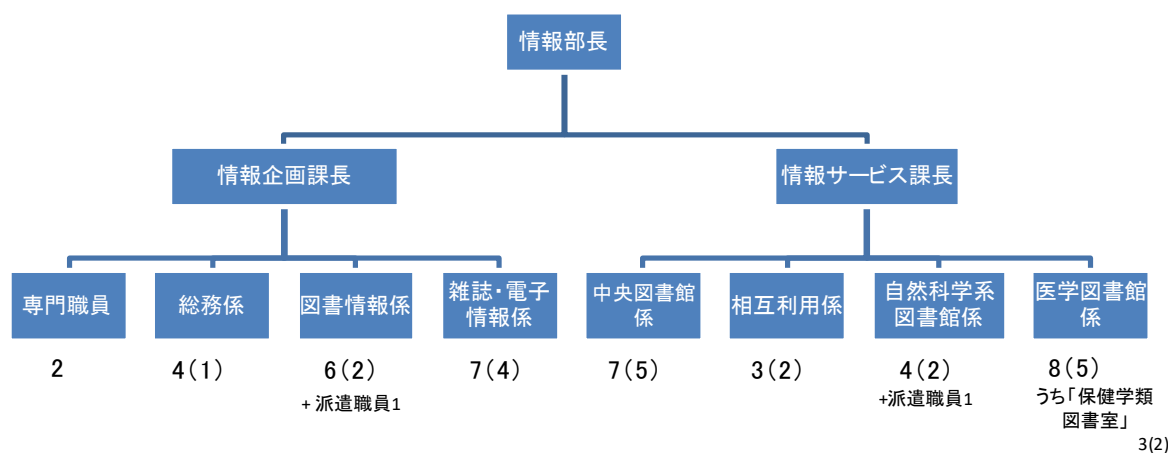
表 1-2 職員の構成及び職員数の推移

		H26	H27	H28	H29	H30
職員総数	常勤	24	24	23	23	23
	非常勤	16	19	21	21	21
	派遣職員	4	2	2	2	2
	計	44	45	46	46	46

【うち司書数】

		H26	H27	H28	H29	H30
司書	専任	15	12	12	12	13
	非常勤	11	14	16	14	14
	派遣職員	2	0	1	2	1
	計	28	26	29	28	28

図 1-2 事務組織図（平成 30 年 5 月 1 日現在）（「図書館概要 2018」）



（ ）内は非常勤職員の内数。平成30年5月1日現在

表 1-3 図書館職員のお機関での活動

開催日	名称	担当者
平成27年 5月28日～29日	第86回日本医学図書館協会総会 <発表>	中央図書館係職員
平成27年 7月9日～10日	第36回EUIセミナー <発表>	情報サービス課長
平成27年 9月16日～18日	平成27年度目録システム地域講習会 (図書コース・名古屋大学) <講師>	図書情報係職員
平成27年 9月28日	平成27年度目録システム入門講習会 (富山大学) <講師>	医学図書館係職員
平成28年 1月29日	平成27年度国立大学図書館協会シンポジウム <業務支援>	情報サービス課長
平成29年 7月5日～6日	第5回, 第6回スチューデント・リーダー・プログラム (山口大学) <講師>	中央図書館係長
平成30年 7月4日～5日	第9回, 第10回スチューデント・リーダー・プログラム 「ライティング入門講座」(山口大学) <講師>	中央図書館係長
平成30年 8月29日	平成30年度福井地区大学図書館協議会 (福井大学) <発表>	情報サービス課長
平成30年 9月6日～7日	第8回大学図書館学生協働交流シンポジウム (広島大学) <事例発表>	中央図書館係長

表 1-4 図書館業務用システム等の更新状況

	内 容
平成29年 3月	図書館業務用システムNALISを更新し、クライアントサーバ版からWeb版へ移行
平成29年11月	金沢大学学術情報リポジトリKURAのプラットフォームをJAIRO Cloudへ移行

2 情報資源・資料

2-1 資料の収集と保存の方針

【状況】

- 図書館資料の収集については、「金沢大学附属図書館資料整備要項」（資料 10）、「金沢大学附属図書館資料整備に関する基本方針」（資料 11）、「金沢大学附属図書館受入資料取扱基準」（資料 12）に基づいて実施している。平成 28 年度には、「金沢大学附属図書館資料選定基準」（資料 13）を整備した。
- 「金沢大学附属図書館の基本理念と目標」（資料 14）では、「前身校及び本学ゆかりの先人たちから受け継いだ資産を守り、時間、空間を超えた知のクロスロード（交差点）として、知的資産の安定した提供及び保存管理体制を整備」することを目標として掲げ、「金沢大学附属図書館中長期ビジョン」（資料 15）では、「電子的資料の積極的な購入や蔵書の電子化を可能な限り着実に進め、一層充実した「電子化図書館」をめざす」こと、「長期収蔵に関して新たな基準を作成し、公共図書館及び大学図書館との資料の共有化を積極的に図る」ことを戦略として掲げている。
- 資料の保存については、各館の専門に対応した資料を各館の書庫で保存する体制としている。また、各キャンパスの研究室から返納された図書・雑誌についても、対応する館の書庫に保存している。
- 資料の除籍については、「金沢大学附属図書館資料の不用決定及び処分に関する要項」（資料 16）を平成 30 年度に見直し、不要とする資料の判断基準を明確化した（資料 17）うえで実施している。
- 「平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価報告書」（資料 4）で挙げられた課題とその対応状況は、表 2-1 のとおりである。
- 中央図書館の保存書庫では、和装本を帙（ちつ）に入れずに配架しており、資料保存上望ましくない状態となっている。

2-2 図書の整備

【状況】

- 図書の蔵書数（研究室利用図書を含む。）は、平成 27 年度の合計約 189 万冊から平成 30 年度の約 191 万冊に増加した（図 2-1）。
- 図書の年間購入冊数（研究室利用図書を含む。）は図 2-2 のとおりである。
- 学生用図書整備費は、平成 27 年度の 3,700 万円から平成 28 年度の 3,200 万円に減少したものの、以降平成 30 年度まで 3 年間は、年間 3,200 万円を確保した。

- 学生 1 人あたりの学生用図書費も、平成 27 年度の 3,600 円から平成 28 年度の 3,100 円に減少したものの、以降平成 30 年度まで 3 年間は 3,100 円を確保した（図 2-3）。
- 学生用図書の選定は、中央図書館と自然科学系図書館については、図書館委員会の下に設置した学生用図書選定部会で選定を行っていたが、平成 30 年度以降は角間地区図書選定部会に名称を改めた（表 1-1）。角間地区図書選定部会において選定手順を定めたうえで、各部局による選定、角間地区図書選定部会委員及び図書館職員による選定、教員による推薦、学生からのリクエスト等により選定を行っている。
- 医学図書館及び保健学類図書室に配架する学生用図書については、主として医薬保健学域の各研究室からの推薦に基づいて選定を行っている。
- 利用者アンケートでは、「学修や研究のために必要な紙の図書や雑誌は充実していますか」という設問に対し、「満足」「やや満足」と回答した割合は 42%（前回 60%）であり、前回よりも低くなっている（資料 8・問 19）。
- 利用者アンケートでは、図書の整備に関する多くの意見が寄せられた（資料 9 【2-2】）。

2-3 雑誌（紙資料）の整備

【状況】

- 紙資料の学術雑誌の購読タイトル数は、重複調整及び電子ジャーナルへの移行が急速に進んだため、図 2-4 のとおり減少傾向にある。
- 利用者アンケートでは、雑誌（紙資料）の整備に関する意見が寄せられた（資料 9 【2-3】）。

2-4 電子ジャーナル及び二次資料データベースの整備

【状況】

- 電子ジャーナルについては、ビッグディール（大手学術雑誌出版社が提供する全タイトルを閲覧できるパッケージ単位での購入）が定着し、利用できるタイトル数が増加する一方、価格は高騰している。
- 電子ジャーナル及び二次資料データベースについては、平成 22～27 年度の第 2 期学術情報基盤整備計画、平成 28～30 年度の第 3 期学術情報基盤整備計画（前半）に基づき、購読費用の約半分を部局経費（各部局に所属する教員数、大学院生数に重み付けを行った数値を用いて按分）、残りの約半分を全学的な経費である特別整備事業費で負担し、購入した。
- 導入するタイトルについては、平成 26 年度と平成 29 年度に、各部局からの要望、費用対効果等を勘案し、図書館委員会の下に設置した学術情報基盤整備 WG で見直しを行った。
- 平成 30 年度に平成 31～33（令和 3）年度の第 3 期学術情報基盤整備計画（後半）を策定し、

今後、令和3年度前半までに令和4年度から始まる第4期中期目標・中期計画期間中の整備計画の策定が必要となる。

- 平成30年度現在、9,916タイトルが利用可能となっている（図2-4）。
- 学術情報基盤整備計画では、最新号を利用でき、契約中止後のアクセス権が残る主要学術雑誌出版社の電子ジャーナルを中心に購入し、アグリゲータ（多くの出版社の電子ジャーナルを包括的に収集・提供するサービス）系の電子ジャーナルパッケージの購入は少ない。
- 二次資料データベースについては学術情報基盤整備計画以外に図書館事業費でも整備を行っており、平成30年度現在で20タイトルが利用可能となっている。
- 電子ジャーナルのダウンロード件数は、図2-5のとおりであり、一部減少している電子ジャーナルパッケージがあるものの、全体として増加しており、活発に利用されていると言える。
- 利用者アンケートでは、「学修や研究のために必要な電子ジャーナルやデータベースは充実していますか」という設問に対し、「満足」「やや満足」と回答した割合は28%（前回40%）であり、前回よりも低くなっている（資料8・問20）。
- 利用者アンケートでは、電子ジャーナル及び二次情報データベースの整備に関する意見が寄せられた（資料9【2-4】）。

2-5 金沢大学学術情報リポジトリ

【状況】

- 金沢大学学術情報リポジトリ（以下、「KURA」と表記する。）は、本学教職員等が教育・研究活動の結果として生み出した学術論文、紀要等の全文を、インターネット上で公開するためのシステムであり、総登録件数は、図2-6のとおり、平成27年度の合計約3万8千件から平成30年度の約4万3千件に増加した。また、毎年160万件以上のコンテンツがダウンロードされている。
- 平成30年度にダウンロード件数が減少したが、これは、平成29年11月にプラットフォームをJAIR Cloudに移行したことにより、ロボットによるダウンロード件数を排除するなど統計の精度があがったことに起因すると分析している。
- 「金沢大学附属図書館の基本理念と目標」（資料14）において、「金沢大学の知的研究成果」の発信を目標として掲げ、「金沢大学附属図書館中長期ビジョン」（資料15）において、「機関リポジトリの一層の拡充」を戦略として掲げた。これらの目標を実現するため、平成30年度には図書館委員会の下に設置したオープンアクセス方針検討WGで検討を行い、「金沢大学オープンアクセス方針」（資料18）を策定し、本学に在籍する教員の公的研究資金を用いた研究成果をKURAによって公開することを原則義務化した。また併せて具体的な要領を示した「金沢大学オープンアクセス方針実施要領」（資料19）も施行した。
- 利用者アンケートでは、「KURAは、学修・研究に役立っていますか」という設問に対し、「満

足」「やや満足」と回答した割合は、17%（前回 20%）であり、前回よりも低くなっている。また、利用したことがないと回答した割合は、55%（前回 74%）であり、前回よりも低くなっている（資料 8・問 17）。

- 利用者アンケートでは、KURA に関する意見が寄せられた（資料 9 【2-5】）。

2-6 目録情報の電子化

【状況】

- 大学で所蔵する蔵書の目録情報については、蔵書 1,911,948 冊のうち、平成 30 年度末現在、図書所蔵 924,558 件がオンライン蔵書目録（OPAC plus）で検索可能となっている（図 2-1、表 2-2）。
- OPAC plus の検索結果画面に表示される研究室名は、従来、学域学類制発足前の学部学科等の名称を使用していたが、平成 29 年度の図書館システム更新時に、新規受入分について現在の系名（一部学類、コース名）に修正した。
- 現在未登録の図書の目録情報の遡及入力については、研究室から附属図書館に資料が返納された際に各館で実施しているが、近年、研究室の狭隘化に伴い、研究室全体の資料を大量に図書館に返納するケースが増えており、作業が追いついていない状況である。職員の日常作業に加え、外部委託も行っている。また、平成 29 年度の図書館システム更新後には、遡及入力の作業内容を見直すなど、効率化を図っている。
- 第四高等学校、暁烏文庫の資料の目録情報については、主として和装本、漢籍等の遡及入力が終わっておらず、石川師範学校や金沢高等師範学校の図書は、ほとんど遡及入力が行われていない（表 2-3）。

2-7 コンテンツの電子化

【状況】

- 「金沢大学附属図書館中長期ビジョン」（資料 15）では、「電子的資料の積極的な購入や蔵書の電子化を可能な限り着実に進め、一層充実した「電子化図書館」をめざす」ことを戦略として掲げた。この目標を実現するため、電子的資料の購入や蔵書の電子化に取り組んでいる。
- 電子ジャーナルやデータベースに加えて、電子書籍の購入を進めており、所蔵数は平成 27 年度の 2,595 冊から平成 30 年度の 7,027 冊に増加した（表 2-4）。
- 利用者アンケートでは、「学修・研究に必要な電子ブックは充実していますか」という設問に対し、「満足」「やや満足」と回答した割合は 17%、「やや不満」「不満」と回答した割合は 4%であった。また、利用したことがないと回答した割合は、55%であった。（資料 8・問 21）

- 利用者アンケートでは、電子書籍等に関する意見が寄せられた（資料 9【2-7】）。
- 電子ジャーナル、データベースの整備については「2-4 電子ジャーナル及び二次資料データベースの整備」で記載済である。
- 所蔵資料の電子化については「5-3 所蔵貴重資料等の提供」で記載する。

2-8 各種コレクションの整備

【状況】

- 金沢大学附属図書館独自のコレクションとして、表 2-5 のコレクションがある。これらには、前身校から引き継いだもの、寄贈によるもの、図書館の方針で重点的に整備しているものが含まれる。
- 北陸銀行文庫については、毎年度寄贈を受け、冊数が増加している。
- 環境学コレクションについては、環境学コレクション整備 WG で選定を行っていたが、平成 30 年度以降は、角間地区図書選定部会（自然科学系図書館部会）委員及び環境教育・研究関連教員による選定を行っている（表 1-1）。

【分析・評価】

紙資料について

評価：□特筆すべき高い質にある ■高い質にある □相応の質にある □質の向上が求められる

分析・評価コメント：

情報資源・資料のうち紙資料についての評価は「高い質にある」と判断する。まず、図書館としての基本理念や中長期ビジョンのもと、資料収集と保存方針についても要項、方針、基準等を整備済みであり、それらに基づいて資料の収集、保存が図られている。また除籍基準も明確化し、その基準のもとに除籍を行うことで、書架スペースの圧迫を抑えながら真に必要な資料の収集を行っている。一方で保存書庫における保存方法については和装本など改善が必要な部分も見受けられる。

図書にかかる経費は平成 28 年度以降、経費削減があったが、学生教育用図書についてはそれ以降 3 年間同額を維持し、勉学に資する図書の充実を図っている。一方で、利用者アンケートでは所蔵図書に対する満足度が下がっていることから、さらに丁寧に学生のニーズを汲み取っていく必要があることもうかがえる。

本学図書館には 15 種、18 万冊以上のコレクションがある。これらの中にはきわめて個性的なコレクションも存在しているが、その一部には整理保存状況に改善が必要と思われるものもあり、さらなる整備が必要な側面がある。またこれらを資源としてどう活かしていくかについてはさらに具体的なビジョンが必要なところであろう。

とはいえ、予算削減の折から明瞭な指針に基づき整備を進めている点については高い質にあると考えられることから、上記のとおり評価する。

電子資料について

評価：□特筆すべき高い質にある □高い質にある ■相応の質にある □質の向上が求められる

分析・評価コメント：

大学の学術基盤として、電子ジャーナルやデータベースの提供は不可欠である。本学では、学術情報基盤整備計画の策定により安定した予算確保と効率的な購読努力をかさね、三大大手出版社（Elsevier、Springer、Wiley）およびその他の主要電子ジャーナルとの間でパッケージ契約している。利用件数（論文ダウンロード数）は、APS やメディカルオンラインでやや減少傾向にあるものの全体では増加しており、本学の研究活動に大きく貢献し、高い質にあると評価する。今後の課題には、毎年の購読価格上昇への対応、及び、研究分野によっては基幹雑誌の契約がないことが挙げられる。大学の財政状況に大きな改善が期待できない中で、根本的な課題解決には大規模な外部資金の導入や公平感の高い受益者負担制度の新しい仕組み構築などの抜本的対策を模索する必要がある。

電子書籍の所蔵数は和書、洋書ともに順調に増加し、平成 30 年には 7 千冊に達している。現状の実績は相応の質にあると評価するが、本学図書館の未来像を考えると、ユーザーの利便性向上や書架狭隘化解消のために、蔵書の電子書籍への転換が求められる。電子書籍の導入促進のためには、新規購入図書予算計画や選定手順において購入枠を設ける等の対策が必要である。

KURA への学術論文の登録数は順調に増加しており、コンテンツのダウンロード実績も一定数を維持している。平成 30 年度には、研究成果登録の原則義務化を決定し、論文登録の効率化を図った。今後の実績数の推移を注視することと併せて、KURA システムの学内外における認知度について一層の向上を図ることが課題である。

目録情報の電子化は新規購入資料を中心に進めており、オンライン蔵書目録（OPAC plus）で検索可能な蔵書数は平成 27 年度末から平成 30 年度末にかけて 88 万冊から 92 万冊まで増加した。一方で、総蔵書数 191 万冊と比較すると検索可能な蔵書の割合が半分に満たない状態が続いている。外注作業の導入などの改善努力は認められるが、現状では人的資源が大きく不足しており、目録情報の電子化について 100%の達成を見通すことができない。また前身校から引き継いだ蔵書や研究室所蔵の資料への対応についても、長期的な目標設定や効率的な作業への改善が必要である。

電子ジャーナルやデータベースの整備について本学の研究活動に大きく貢献したと評価できるものの、毎年の購読価格の上昇が予算の逼迫を招いていることや、KURA による学術情報のオープンアクセス化の推進が望まれること、目録情報の電子化に顕著な進展が見られないことなど今後の課題も多いことから、上記のとおり評価する。

表 2-1 資料の収集と保存に関する課題と対応状況

課題（※）	対応状況
東海北陸地区での共同書庫を設置し、バックナンバー等を集中化する構想に関する大学間での協議	東海北陸地区国立大学図書館協会において検討を継続し、名古屋大学から概算要求を行っている。
書架狭隘化解消のための可能な限りの重複所蔵資料除籍	平成30年9月に中央図書館で開催された国立大学図書館協会東海北陸地区助成事業シンポジウム「大学図書館蔵書の電子書籍化の未来を語ろう」で出された意見も踏まえ、「金沢大学附属図書館資料の不用決定及び処分に関する要項」（資料16）を平成30年度に一部改正し、併せて第3条及び第10条で不用とする資料の判断基準（資料17）を策定し、資料の除籍を進めやすくした。
書架狭隘化解消のための電子書籍の導入・分析	平成29年度から電子書籍の試読サービスを実施し、利用者の希望を反映させるなどの取り組みを行った。
電子ジャーナルの適切な選定方法及び購入経費配分の検討	平成26～27年度に第3期前半、平成29～30年度に第3期後半について、学術情報基盤整備WGにおいて購読タイトル、購入経費配分について検討を行い、これに基づきコンテンツを提供した。
目録情報の電子化の計画的かつ鋭意な入力作業の実施	職員による作業に加え、外注による作業も実施した。
医学部旧書庫蔵書の自然科学系図書館保存書庫への仮置き	一部の資料について確認作業を実施し、重複図書所蔵資料については除籍を実施した。
カビの発生対策	平成28年度に、医学図書館3階書庫、自然科学系図書館地下保存書庫等で、資料のカビを確認、カビのふき取りを実施した。一部書籍の燻蒸を毎年1回実施した。

※平成27年度金沢大学附属図書館外部評価報告書（資料4）の意見に基づく課題

図 2-1 蔵書数の推移（「図書館概要」）

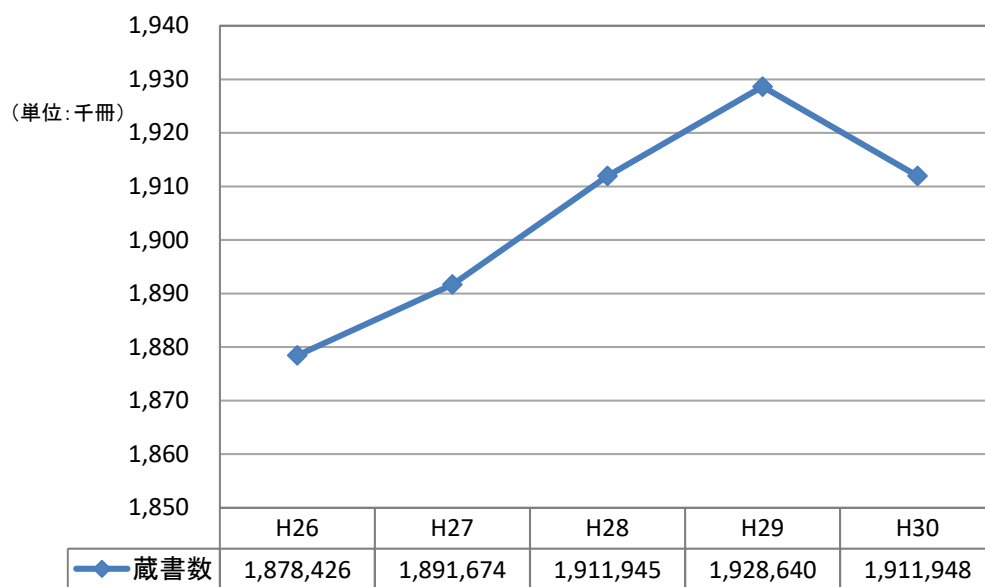


図 2-2 年間購入冊数の推移（「図書館概要」）

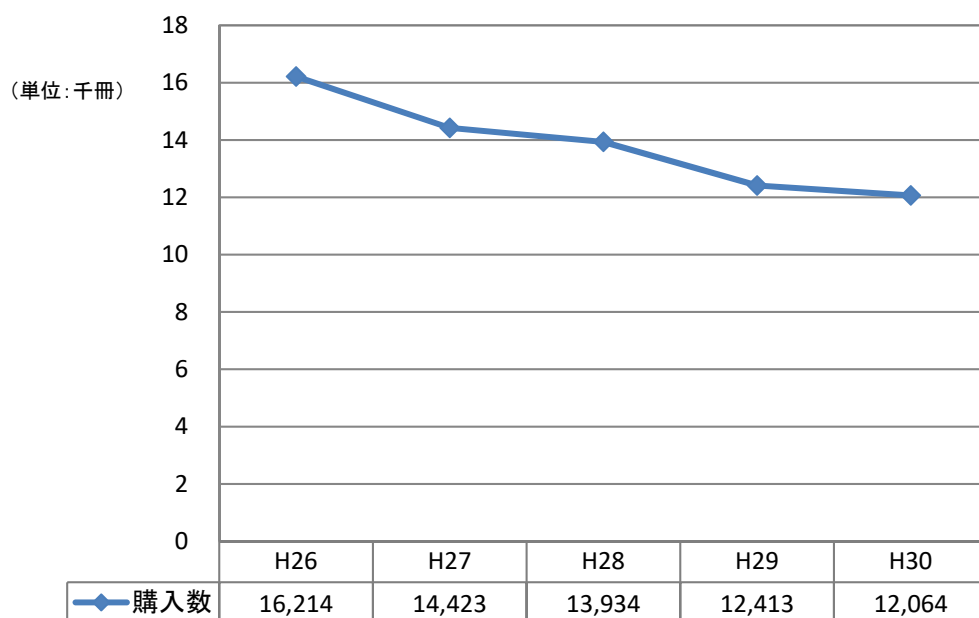


図 2-3 学生用図書費の推移（「大学概要」及び図書館委員会決算資料）

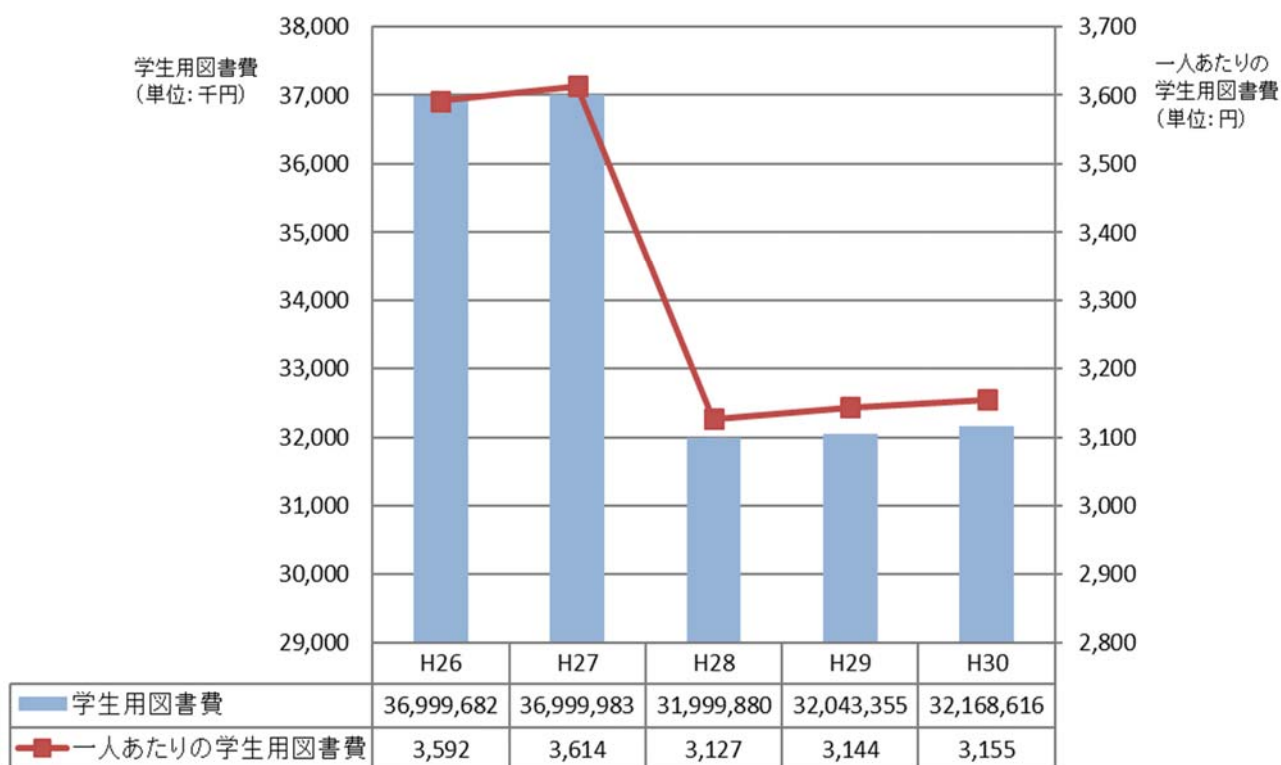


図 2-4 購読雑誌数の推移（「図書館概要」）

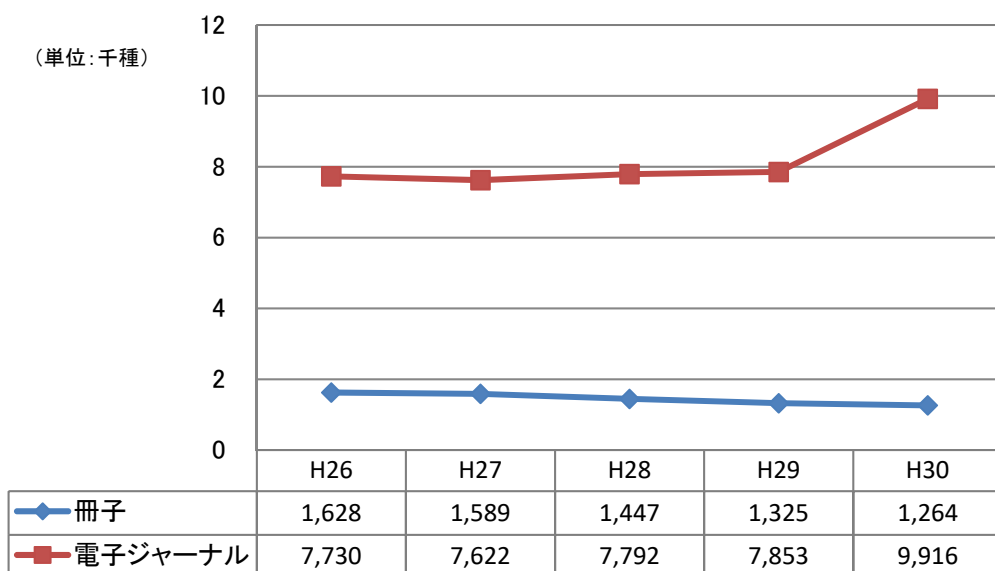


図 2-5 主要電子ジャーナルパッケージの利用の推移（雑誌・電子情報係調べ）

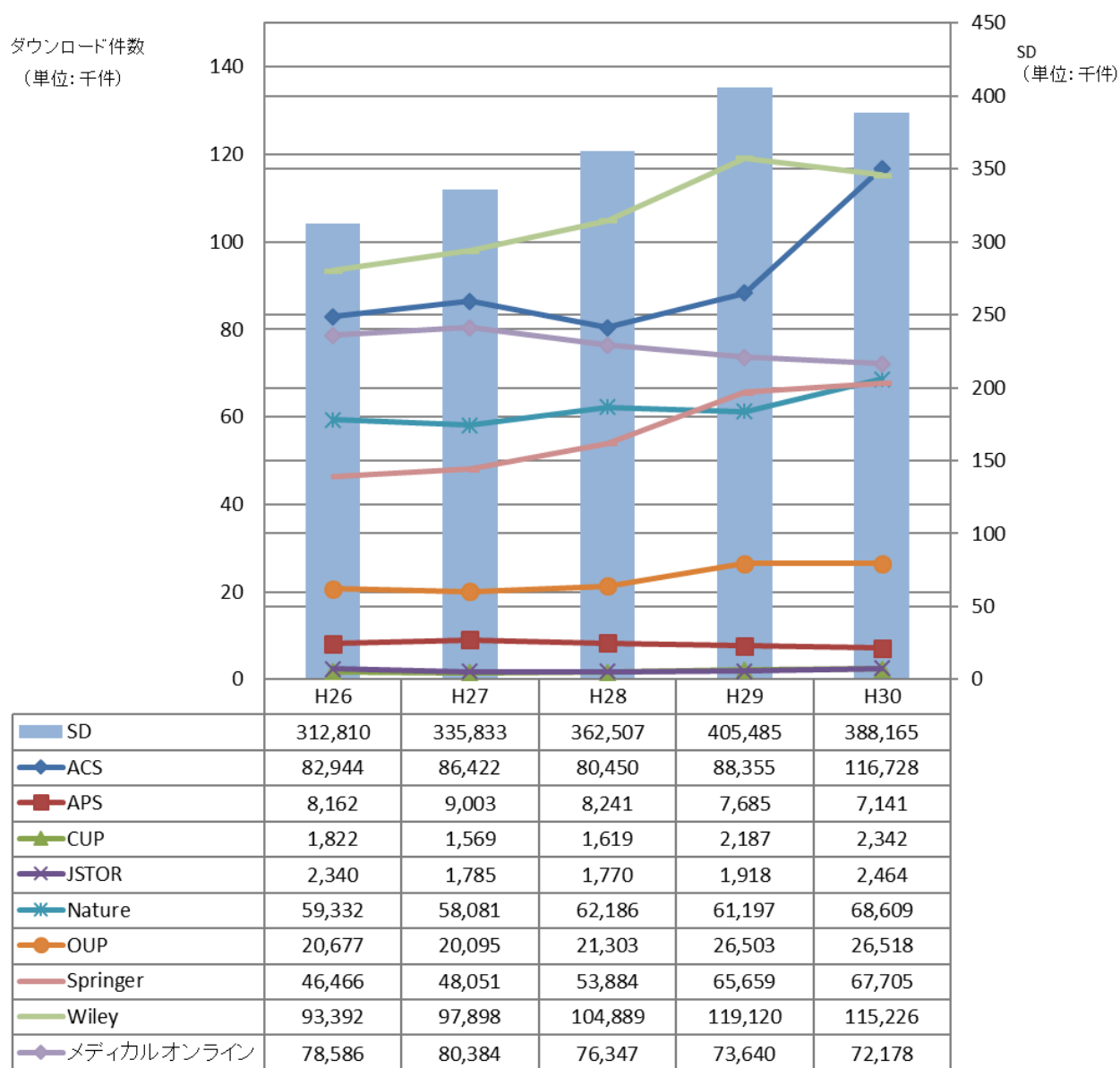


図 2-6 KURA のコンテンツ累積登録数と利用件数（「図書館概要」及び雑誌・電子情報係調べ）

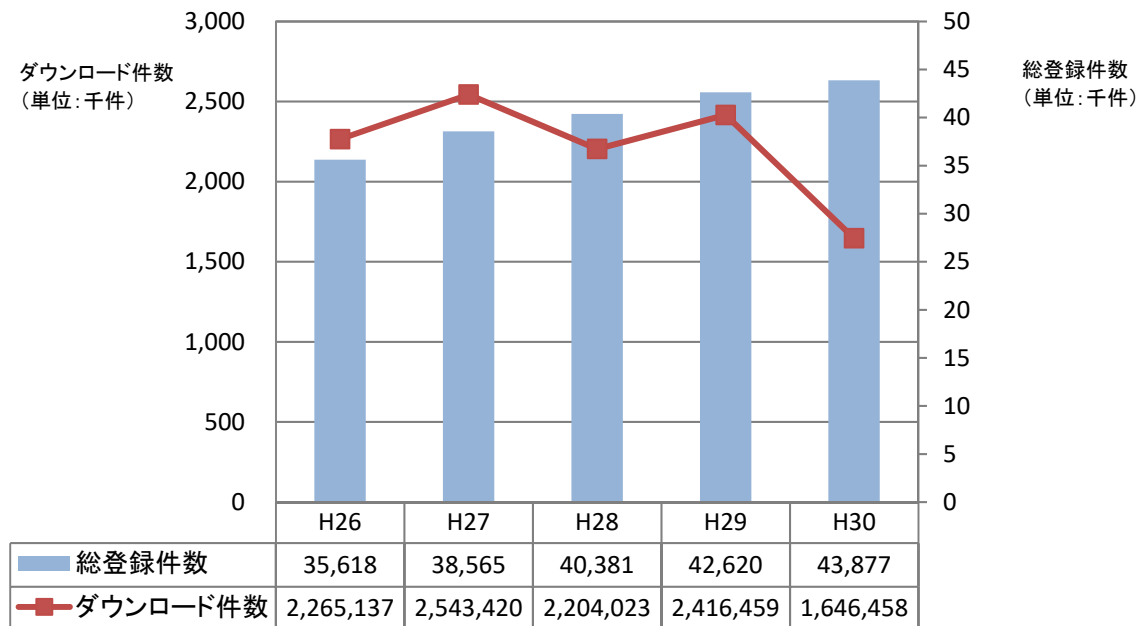


表 2-2 OPAC plus で検索可能な図書所蔵件数の推移（「NACSIS-CAT/ILL 業務分析表」）

	H26	H27	H28	H29	H30
図書所蔵件数	872,819	888,906	902,948	913,520	924,558

表 2-3 前身校等の蔵書の目録の電子化状況（図書館情報調べ・平成 30 年度末現在）

	登録済		未登録		所蔵冊数 (図書原簿から算出)
	冊数	割合	冊数	割合	
第四高等学校	35,311 冊	36%	62,048 冊	64%	97,359 冊
暁烏文庫	22,407 冊	45%	27,191 冊	55%	49,598 冊
石川師範学校	5,748 冊	16%	30,337 冊	84%	36,085 冊
金沢高等師範学校	264 冊	3%	7,717 冊	97%	7,981 冊

表 2-4 電子書籍の購入タイトル数の推移（「学術情報基盤実態調査」）

	H26	H27	H28	H29	H30
和図書	213	365	83	114	147
洋図書	108	367	2,501	1,238	349
合計	321	732	2,584	1,352	496
累積数	1,863	2,595	5,179	6,531	7,027

H28: Springer Book Archive - Mathematics and Statistics 1990-1999 (2,355冊)

H29: Springer complete eBook Collection - Mathematics and Statistics 2006-2008 (1,036冊)

表 2-5 コレクション一覧（「図書館概要 2019」及び図書情報係調べ・平成 30 年度末現在）

文庫名	内容	冊数
第四高等学校蔵書	金沢大学の前身である旧制第四高等学校が所蔵していた図書	97,359
暁烏文庫	石川県白山市北安田町浄土真宗大谷派明達寺前住職、暁烏敏師旧蔵の図書。各分野に渡る膨大な蔵書。このうち13,500冊が仏教関係図書。	49,124
阿閉文庫	元金沢英和学校校長で、エスペラント語を広めたことでも知られる畜産業家阿閉政太郎氏寄贈の蔵書。	245
井田文庫	教育者、井田竹治氏寄贈の蔵書。享保9年から天保8年までの浄瑠璃本のコレクションを含む。昭和25年12月に本学に寄贈された。	111
浦井文庫	元第四高等学校教授、浦井鎧一郎氏及び同教授記念事業会寄贈の図書。西洋史に関する文献が多い。	487
金戸文庫	元県立中学校の数学教諭、金戸貞敬氏寄贈の和算書についてのコレクション。	500
岸文庫	元第四高等学校教授・元本学講師、岸重次氏寄贈の蔵書。英語・英文学関係図書中心。語学以外の資料は金沢市立図書館に寄贈。	1,001
駒井文庫	元第四高等学校教授、駒井徳太郎氏寄贈の蔵書。加賀藩刊行の図書・郷土資料等や経書類が多い。	5,492
鈴木文庫	元教養部教授、鈴木直治氏旧蔵のコレクション。古代漢語に関する資料が中心。	5,075
北条文庫	元第四高等学校校長・元学習院院長、北条時敬氏寄贈の蔵書。江戸期の写本が中心。日本青年館、日本棋院、石川県立図書館等にも寄贈。	1,713
用和堂文庫	旧加賀藩礼法指南役、渡辺家寄贈の蔵書。礼法及び有職故実に関する図書が中心。この蔵書は渡辺篤氏が四高在学中に寄贈したもの。	919
宮本文庫	元滋賀大学学長で第四高等学校卒業の宮本憲一氏寄贈の蔵書。財政学、環境経済学、地域経済学、地方自治論、公害問題など	11,964
和田文庫	元法文学部教授、和田三良氏（専門は経済史）寄贈の蔵書。経済史学を中心として、法文経済系図書が多い。	1,647
北陸銀行文庫	平成20年度以降、本学と北陸銀行との間に締結した「包括的連携協力協定に関する覚書」事業の一環として寄贈を受けた図書を各館に配架している。	742
環境学コレクション	本学の第二期中期目標・中期計画で掲げた、学士・修士一貫の環境教育プログラムの基本資料とするために、平成22年度から国内外の環境に関する資料を収集し、自然科学系図書館に設置した。平成24年7月には、中央図書館に、ユネスコスクール・セクションを設置し、ユネスコスクールやESDに関する報告書や事例集・パンフレットなどを収集・配架している。	5,913

3 サービス

3-1 開館日・開館時間

【状況】

- 現在の開館状況は、表 3-1 のとおりである。
- 開館日数、開館時間数の推移は、図 3-1 のとおりである。
- 中央図書館については、平成 27 年度から定期試験期間中の早朝開館を試行し、平成 28 年度から本導入した。
- 利用者アンケートで「満足」「やや満足」と回答した割合は、開館日について 58%（前回 45%）、開館時間について 61%（前回 41%）であり、前回よりも高くなっている（資料 8・問 7～8）。
- 利用者アンケートでは、開館日・開館時間に関する意見が多く寄せられた（資料 9【3-1】）。

3-2 来館利用及び貸出冊数

【状況】

- 総入館者数、貸出冊数（図 3-2）については、平成 26 年度以降、減少傾向にあるが、平成 30 年度は、総入館者数は減少したものの、貸出冊数は上昇に転じている。
- 貸出冊数の推移（学生・教職員別）（図 3-3）は、学生は減少傾向、教職員は上昇傾向にある。

3-3 図書館職員が行う利用者サービスの質

【状況】

- 「金沢大学附属図書館の基本理念と目標」（資料 14）では、すべての利用者へのきめ細やかな支援の提供、一冊の本、一人の利用者たりともおろそかにしない万全のサービスの具体化、3 館の特性を生かした、利用者ニーズに応えるサービスを目標として掲げている。
- 利用者アンケートで「窓口で図書館職員が行う貸出・返却や利用案内等、調べものの相談への対応に満足していますか」という設問に対し、「満足」「やや満足」と回答した割合は、61%（前回 65%）であり、前回よりも低くなっている（資料 8・問 9）。
- 利用者アンケートでは、利用者サービスに関する意見が多く寄せられた（資料 9【3-3】）。

3-4 ILL（他大学等図書貸借及び文献複写）

【状況】

- 現物貸借（図 3-4）については、平成 26 年度以降、「貸出」と「借受」はほぼ拮抗している。平成 29 年度に「貸出」が減少しているが、平成 30 年度は上昇に転じている。
- 石川県内の公共図書館等との現物貸借については、「5-1 県内公共図書館との連携」で記載する。
- 文献複写（図 3-5）については、平成 26 年度以降、「受付」と「依頼」はほぼ拮抗している。「受付」については平成 30 年度、減少に転じており、「依頼」については一貫して減少傾向にある。
- 利用者アンケートで「他の図書館への文献複写依頼、他図書館からの借用サービス（ILL サービス）は役立っていますか」という設問に対し、「満足」「やや満足」と回答した割合は、29%（前回 41%）であり、前回よりも低くなっている（資料 8・問 10）。
- 利用者アンケートでは、ILL に関する意見が寄せられた（資料 9【3-4】）。

3-5 イベント

【状況】

- 平成 27～30 年度のイベントの実施状況は、資料 20「1. シンポジウム、講演会」「2. イベント」のとおりである。平成 22 年度に中央図書館にラーニング・コモンズが設置された後、ブックラウンジ等を活用した図書館主催のイベントが大幅に増えた。
- この期間に実施した特徴的なイベント、新規に始めたイベントとしては、次のものがある。
 - ① 図書館ビブリオバトル（平成 25 年度～）

大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築」の一環としてスタートし、平成 28 年度に事業終了後も、アカデミック・アドバイザー（国際基幹教育院教員）の協力で継続している。
 - ② ブックリユース市（平成 22 年度～現在）

不要になった図書（私物）を学内でリユースしようという趣旨で、中央図書館で開始し、春と秋に開催している。平成 27 年度から自然科学系図書館、平成 28 年度から医学図書館でも、それぞれ年に 1 回開催している。
 - ③ 図書館学生ボランティア「とぼら」の企画イベント（平成 21 年度～）

「4-4 学生との協働」で記載する。
 - ④ 英会話を楽しむイベント（English Hour!）（平成 29 年度～）

「4-5 関連イベント」で記載する。
 - ⑤ EU カフェ
附属図書館には、金沢大学 EU 情報センターが設置されており、平成 22 年度から平成 27

年度までの6年間、本学学生、教職員及びその他図書館利用者に対し、今日のEUの経済状況についての理解を深めてもらうことを目的として、毎年5月9日のヨーロッパ・デーにあわせた日・EUフレンドシップウィーク期間中に開催した。平成28年度以降は、「図書館グローバル・カフェ」として、EU加盟国以外にもテーマ国を広げた上で、テーマ国への留学経験者とテーマ国からの留学生に体験談を語ってもらうイベントとして実施している。

- 平成27～30年度の附属図書館報「こだま」と連動した、教員おすすめ図書の展示の実施状況は、資料20「6. 教員おすすめ図書コーナー（金大生のための読書案内－教員から学生へ）」のとおりである。従来は中央図書館のみで実施していたが、平成22年度から医学図書館、平成28年度から自然科学系図書館、平成29年度から保健学類図書室でも展示を開始し、中央図書館での展示期間終了後、各館を巡回している。
- 平成27～30年度の図書館職員の企画による企画展示の実施状況は、資料20「7. 資料展示」のとおりである。従来は中央図書館のみで実施していたが、平成25年度以降、自然科学系図書館、医学図書館でも行っている。
- 利用者アンケートでは、知っている活動として回答率が高かったイベントは、ブックリユース市(71%)、図書館ビブリオバトル(71%)、英会話を楽しむイベント(English Hour!など)(61%)、本の企画展示(55%)、図書館学生ボランティア「とぼら」の企画イベント(48%)の順であり、図書館内で行っているイベント、展示等の活動が定着してきたことがうかがえる(資料8・問6)。
- 利用者アンケートでは、イベントに関する意見が寄せられた(資料9【3-5】)。

3-6 広報

【状況】

- 図書館ウェブサイトについては、平成30年度にHTTPS通信によるセキュアな接続方式にするために、ソフトウェアをWordPressに変更した。
- 利用者アンケートでは、附属図書館Webサイトから電子資料にアクセスする頻度は、「週に1～2回」以上と回答した割合は、25%（前回18%）であり、前回よりも高くなっている。また、利用したことがないと回答した割合は、11%（前回40%）であり、前回よりも低くなっている（資料8・問4）。
- 利用者アンケートの「附属図書館のWebサイトは、必要な情報を見つけやすいですか」という設問に対し、「満足」「やや満足」と回答した割合は、35%（前回65%）であり、前回よりも低くなっている（資料8・問15）。
- 平成27～30年度に作成した広報資料は、資料20「9. 出版物」のとおりである。
- 附属図書館報「こだま」については、新入生特集号を4月入学の全新生に配付しているが、

その他の号については、教員に配付するほか、来館者用に図書館内に置いている。

- 利用者アンケートでは、「附属図書館報「こだま」の内容に満足していますか」という設問に対し、「満足」「やや満足」と回答した割合は、16%（前回 22%）であり、前回よりも低くなっている。また、利用（閲覧）したことがないと回答した割合は、52%（前回 65%）であり、前回よりも低くなっている（資料 8・問 16）。
- 平成 25 年 7 月に附属図書館公式 facebook ページを開設、平成 28 年 7 月には、「金沢大学附属図書館公式 facebook ページ及び公式 Twitter アカウント運用ポリシー」（資料 21）を策定し、附属図書館公式 Twitter での広報も開始した。
- 「附属図書館概要」については、年 1 回発行している。
- 「図書館利用案内リーフレット」は、全館情報をまとめたものを 4 月入学の全新生に配付している。その他、「一般利用者向けリーフレット」、「英文版リーフレット」も作成し、閲覧カウンター等で配布している。
- 利用者アンケートでは、広報に関する意見が寄せられた（資料 9【3-6】）。

3-7 利用者満足度

【状況】

- 利用者アンケートでは、「サービス、資料、施設・設備全般について評価して、10 点満点で点数をつけてください」という設問について、ポイントは 7.35（前回 7.63）となり、前回よりも低くなっている（資料 8・問 28）。
- 具体的な設問について、前々回、前回と今回での満足度の比較を行った結果は、表 3-2 のとおりである。

【分析・評価】

評価：□特筆すべき高い質にある ■高い質にある □相応の質にある □質の向上が求められる
--

分析・評価コメント：

開館日・開館時間については、前回の自己点検・評価時点から、中央図書館及び医学図書館において試験期間中の平日早朝開館（中央）、土曜の閉館延長（医学）、日曜開館（医学）の取り組みを実施しており、利用者アンケートでの満足度の向上につながっていると考えられる。自由意見として、24 時間開館の要望が多く見受けられるが、自然科学系図書館が特別開館（24 時間利用）を中止した経緯や、セキュリティ、運営経費等の問題も考慮し、慎重な検討が必要であろう。

学術資料の電子化やオープンアクセス化が進む社会状況を考えると、貸出冊数や ILL サービス等の利用は、今後大きくは伸びないと予想されるが、一方で表 4-5 に見られるように学修支援関係ス

ペースの利用は好調であり、学修の場としてのニーズと、学修支援に関するサービスの重要性は今後も高まると思われる。図書館職員の利用者サービスへの満足度は前回より低くなったが、自由意見においてはネガティブな意見は少なく、むしろ館内設備への要望が目立つ。今後は利用者の声を丁寧に取り扱い、対応することで、満足度向上につながることを考える。

イベントについては、継続的に実施しているブックリユース市やビブリオバトル等への図書館利用者の認知度は高く、利用者アンケートでも好意的な意見が多い。今後も積極的に取り組み、多様な人が集まる場としての施設の有効活用と、交流の機会拡大につながることを期待する。

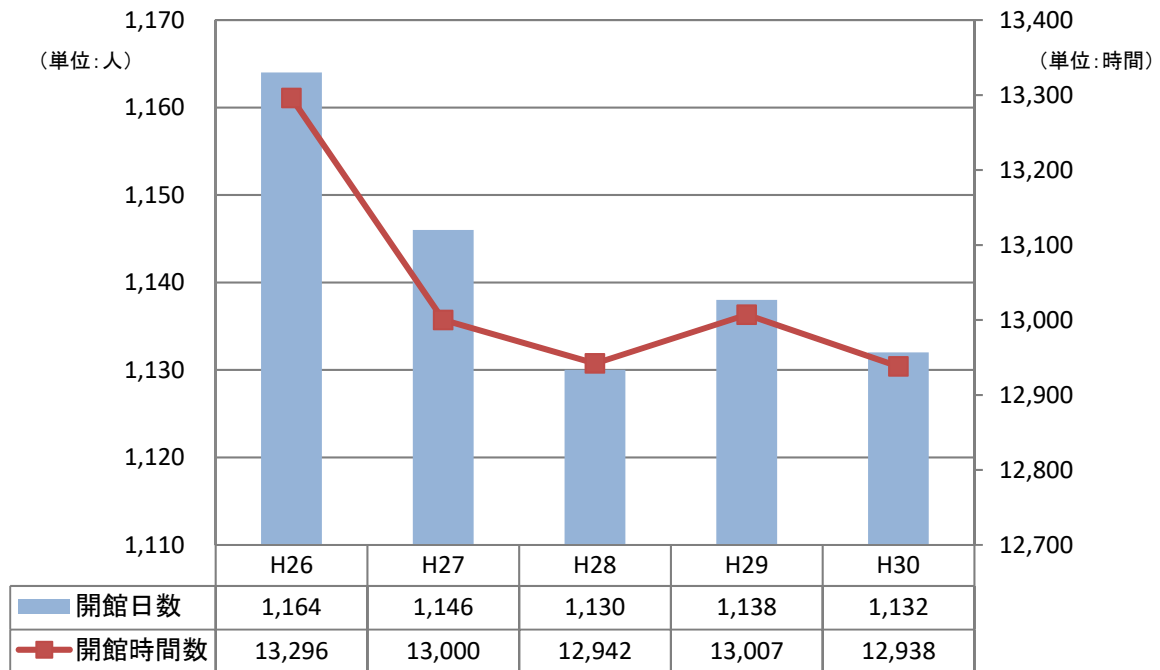
なお、利用者アンケートにおいて、図書館のウェブサイトに関する満足度が前回より低下していることは今後の課題であると考え。自由意見においても開館カレンダー情報に関する意見が多く寄せられており、引き続き利用者の立場に立った利便性の高いサイトデザインの検討を行ってほしい。利用者サービス、ILL、イベントに関する自由意見の中にも、各種案内やルール等が利用者に十分周知されていないことに起因する意見がいくつか見られることから、広報機能のさらなる強化も必要であろう。

図書館における利用者サービスについては、全体としては新しい取り組みを積極的に行っており、その成果が出ていると評価する。今後も今回示された自由意見等を参考に、「金沢大学附属図書館の基本理念と目標」に掲げる「利用者志向のサービスの提供」の向上が望まれる。

表 3-1 3 館の開館時間一覧（令和元年 5 月 1 日現在）

館 名	開 館 時 間		
	平日	土曜日	日曜日
中央図書館	8:45-22:00 試験期 8:00-22:00 休業期 8:45-17:00	9:00-17:00 休業期休館	9:00-17:00 休業期休館
自然科学系図書館	8:45-22:00 休業期 8:45-17:00	10:00-17:00 休業期休館	休 館
医学図書館	8:30-22:00 休業期 8:30-22:00	10:00-16:00 試験期 10:00-17:00 休業期 10:00-16:00	休 館 試験期 10:00-17:00
保健学類図書室	8:45-22:00 休業期 8:45-17:00	10:00-17:00 休業期閉室	休 室

図 3-1 開館日及び開館時間の推移（「図書館概要」）



・ H27：中央図は臨時閉館期間あり（トイレ改修、ラーニング・コモンズ増設）

図 3-2 総入館者数及び貸出冊数の推移（「図書館概要」）

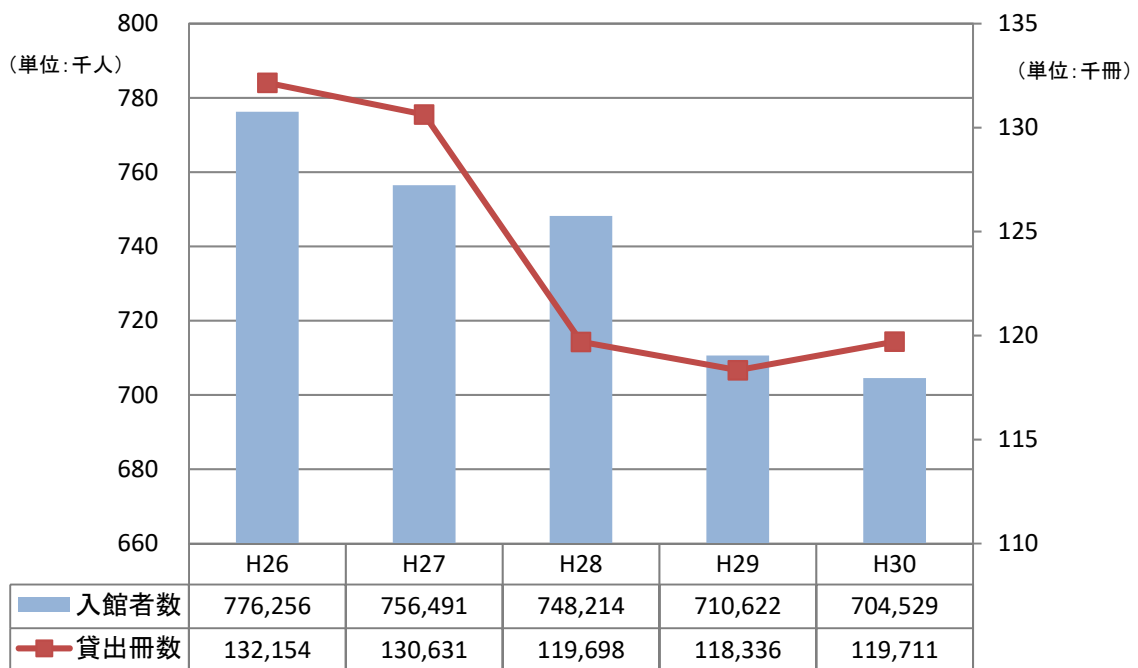


図 3-3 貸出冊数の推移（学生・教職員別）（「図書館概要」）

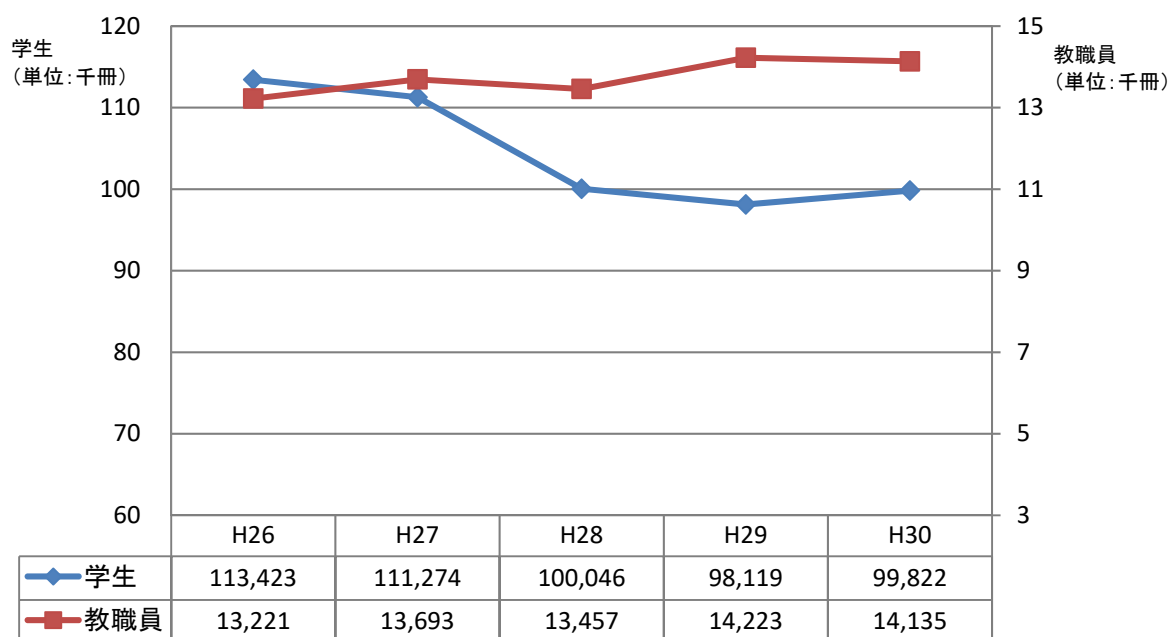


図 3-4 他大学との図書現物貸借数の推移（「図書館概要」）

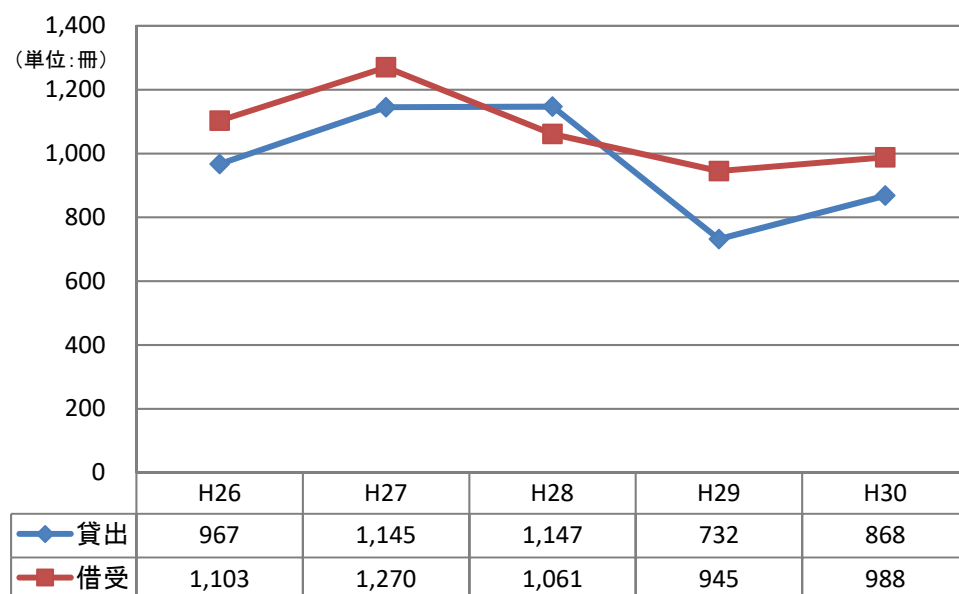


図 3-5 他大学との文献複写数の推移（「図書館概要」）

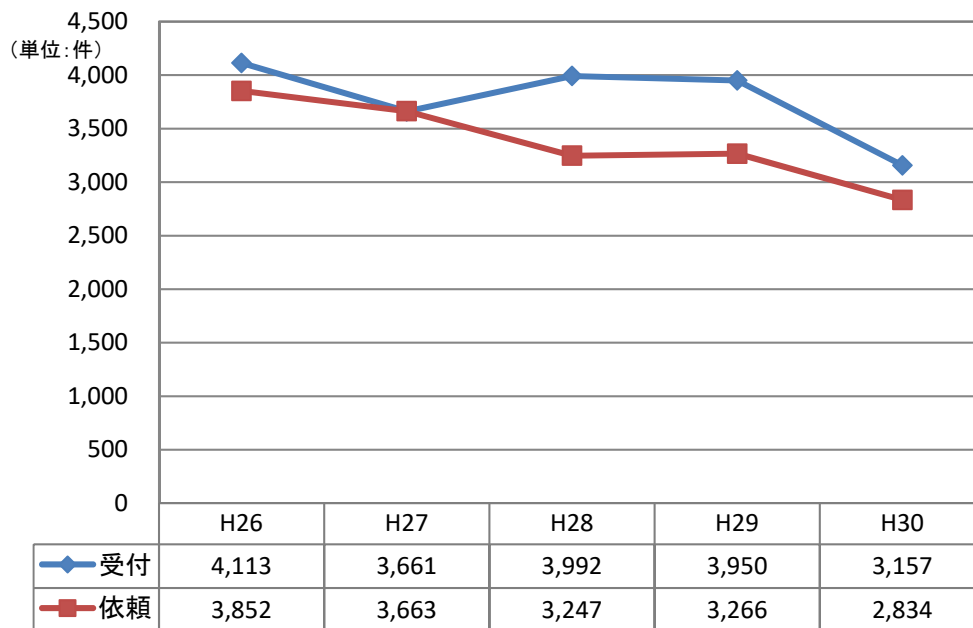


表 3-2 利用者アンケートにおけるポイントの変化

番号	設問	利用者アンケートのポイント数 (10点満点で比較)		
		H20	H26	R1
問7	開館時間	5.79	5.30	6.77
問8	開館日		5.57	6.86
問9	図書館職員が行う貸出・返却や利用案内等，調べものの相談への対応		7.15	7.45
問10	ILLサービス	5.75	8.04	7.08
問11	図書館職員が担当する「情報処理基礎」「大学・社会生活論」などの授業		6.21	6.53
問12	図書館が実施する「ランチョンセミナー」や文献複写など利用者向けの講習会・ワークショップ	4.95	6.74	6.94
問14	オンライン蔵書検索（OPAC plus）	6.16	6.80	6.34
問15	Webサイト	5.85	6.85	5.81
問16	附属図書館報「こだま」		6.55	6.01
問17	KURA		7.08	6.13
問19	紙の図書や雑誌	6.00	6.05	5.95
問20	電子ジャーナルやデータベース	5.71	5.98	5.64

4 学修支援

4-1 情報リテラシー教育

【状況】

- 附属図書館が関与する情報リテラシー教育として、平成 27～30 年度は表 4-1 のような活動を実施した（資料 20「4. 講習会、オリエンテーション、ワークショップ」も参照）。
- 実施内容については、図書館職員が検討を行っている。
- 「授業との連携」については、共通教育科目「大学・社会生活論」及び「情報処理基礎」の中の 1～2 コマを図書館職員が担当し、全新入生を対象に情報リテラシー教育を行うことが定着している。内容は、図書館利用方法の基本、蔵書検索、日本語学術論文の検索が中心で、実習を含んでいる。
- 図書館内で図書館職員が行う「レポート作成基礎講座」、「文献収集法講座」等の説明会・講習会を定期的実施している。
- 平成 26～28 年度、本学の情報リテラシー教育への取り組み（「英語による留学生図書館オリエンテーションの実施」、「レポート作成基礎講座等の実施」、「図書館職員が分担して実施している体制」）により、「東海北陸地区国立大学図書館協会学習支援ライブラリアンコンテスト（平成 28 年度は「ライブラリアンの教育学習支援力コンテスト」に名称変更）」で、最優秀賞 1 回、優秀賞 2 回を受賞した。
- 利用者アンケートでは、情報リテラシー教育に関する意見が寄せられた（資料 9【4】）。

4-2 学修支援制度

【状況】

- 平成 26 年度までは、大学間連携共同教育推進事業で雇用されたラーニング・アドバイザー（旧 LA）が、教員から申請のあった特定授業に関する学修支援を附属図書館内等で実施していた。平成 27 年度以降、旧 LA の業務は、大学教育再生加速プログラムで雇用されたアクティブ・ラーニング・アドバイザー（ALA）が継承している。
- 附属図書館では、平成 27 年度後期以降、金沢大学教育改革 GP で雇用したラーニング・アドバイザー（新 LA）が、授業時間外における自学自習の充実及び学修の質の高度化に特化するため、中央図書館及び自然科学系図書館内のラーニング・サポートデスクで、特定授業とは連携しない形で、対面形式による学修支援を実施している。ただし、平成 30 年度以降、金沢大学教育改革 GP 予算が削減されたため、新 LA は附属図書館予算により雇用し、中央図書館のみで実施する形に変更している。
- 平成 27 年度以降、金沢大学スーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業で雇用された、留

学生ラーニング・コンシェルジュ（LeCIS）も中央図書館及び自然科学系図書館内のラーニング・サポートデスクに配置し、留学生を主対象とした学修相談を実施している。

- 平成 25 年度後期以降、国際基幹教育院の協力で、学修支援担当の教員（平成 30 年度以降は、アカデミック・アドバイザー（AA）として実施）も中央図書館内で学修相談を担当している。
- 平成 30 年度以降は、日本語で学修相談に乗る新 LA（日本人の大学院生または学生）、外国語で相談に乗る LeCIS（主として留学生の大学院生）、AA が一体となって、中央図書館と自然科学系図書館のラーニング・サポートデスク（自然科学系図書館は LeCIS のみ）で曜日ごとに担当者を決めて活動を行っている（実績は表 4-2、4-3）。
- 平成 29 年度に実施した「LA 及び LeCIS の活動に関するアンケート調査」によると、新 LA 及び LeCIS の活動について一定の評価はされているが（資料 22 質問 3～10）、新 YAMAZAKI プラン 2018（資料 3）において一層の充実が求められている。
- 従来、附属図書館が担当する学修支援については、図書館委員会の下に設置したラーニング・コモンズ運営部会で検討を行っていたが、平成 28 年度以降は、学修支援検討部会と名称を改めた（表 1-1）。
- 「平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価報告書」（資料 4）で挙げられた課題とその対応状況は、表 4-4 のとおりである。

4-3 学修環境

【状況】

- 平成 27 年度、自然科学系図書館にラーニング・コモンズを設置した。また、中央図書館及び医学図書館のラーニング・コモンズの増設をそれぞれ行い、グループ学習や国際交流のためのスペースの充実を図った（表 7-2）。
- 平成 27 年度、全館的なラーニング・コモンズの整備に伴い、「金沢大学附属図書館ラーニング・コモンズ利用内規」（資料 23）を策定した。
- 利用者アンケートでは、「図書館内のオープンスタジオ・国際交流スタジオ・グループスタジオは使いやすいですか」という設問に対し、「満足」「やや満足」と回答した割合は、33%であり、「やや不満」「不満」と回答した割合は、4%であった。また、利用したことがないと回答した割合は、33%であった（資料 8・問 26）。
- 各館の学修支援スペースの利用状況は表 4-5 のとおりである。

4-4 学生との協働

【状況】

- 学生の自主的な活動を図書館業務にも生かすために設置している図書館学生ボランティア「とぼら」が、主に中央図書館で、学生の視点による選書、展示、イベントの企画等を行っている。
- 「とぼら」の人数及び年度ごとの活動状況は表 4-6、4-7 のとおりである。

4-5 関連イベント

【状況】

- 「平成 27 年度金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書」（資料 6）では、「今後、日本人学生のみならず、外国人留学生にも対応できるような国際化への取り組みが課題」と指摘した。また、平成 26 年度、本学がスーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業に採択されたことを受け、平成 27 年度、中央図書館及び自然科学系図書館に国際交流スタジオを設置し、留学生と日本人学生の日常的な交流を促進するための「English Hour!」「図書館グローバル・カフェ」等の国際交流イベントの実施が増えた。
- 平成 27～30 年度の関連イベントの実施状況は、資料 20「3. ラーニング・アドバイザー、留学生ラーニング・コンシェルジュ関連イベント」のとおりである。
- 平成 27～28 年度、職員の情報リテラシー教育の実施及び企画に関する能力の向上を図るため、大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築」の図書館機能強化プログラムとして、図書館職員を含む関係者を対象に表 4-8 のとおり講習会を開催した。

【分析・評価】

評価：□特筆すべき高い質にある □高い質にある ■相応の質にある □質の向上が求められる

分析・評価コメント：

情報リテラシー教育においては、学生のニーズを考慮しながら、図書館職員の検討のもとに授業・カリキュラムとの連携を図っており、その回数・参加者数を維持してきた。一方、利用者アンケートにみられるように、医学図書館での教育ニーズと事務職員からの受講ニーズも表れており、全学的な情報提供やニーズ把握を継続しながら量的・質的な拡充を図る必要がある。

学修支援制度においては、旧 LA が新 LA 及び LeCIS へと継承された以降も、利用件数の伸長が達成され、一定の定着ができています。現在、学修支援検討部会による検討のもとに、AA と一体となった学修支援体制が整備され、外部評価報告書で指摘された事項についても着実な改善が図られて

きた。

学修環境においては、中央図書館及び医学図書館ラーニング・コモنزの増設、自然科学系図書館のラーニング・コモنز設置により利用数の着実な増加、利用者における高い利用満足度が得られている。一方で利用者アンケートには、「ほんとかふえ。」の増床や、冷暖房に対する不満、パソコン用電源コンセントの利用ニーズが多く表れており、アクティブラーニングに対応したラーニング・コモنز環境整備の維持とともに、学生ニーズをとらえた学修環境改善の検討が急がれる。

学生との協働においては、図書館学生ボランティア「とぼら」の活動が前回自己点検・評価以降も継続し定着がみられる。今後の発展のために、LA・LeCIS との連携や、学修支援関係部署とのネットワーク化を図り、点から線につなげる拡充方策の検討の余地が残されている。

最後に、関連イベントにおいては、総合教育棟へのアウトリーチ及び留学生と日本人学生の交流ニーズに応えるべく、国際基幹教育院教員・LA・LeCIS と協働して実施したランチョン・セミナー及び English Hour! の実施がなされた。今後の活動の定着に向けては、支援にあたる教職員及び LA・LeCIS の能力育成は必要な条件となるため、外部講師を招いた講習会の実施に限らず、多くの学生・教職員に図書館学修支援への認知度向上と参画が得られるよう、組織的な活動推進が求められる。

表 4-1 附属図書館が担当した学修支援活動の年度別実施状況

#	区分	名称		H26	H27	H28	H29	H30	備考
1	共通教育科目・ 選択科目の講師 担当	大学・社会生活論	回数	14	15	15	14	17	全新入生対象
			人数	1,780	1,792	1,776	1,779	1,787	
		情報処理基礎	回数	35	34	21	21	22	全新入生対象
			人数	1,780	1,792	1,776	1,779	1,787	
		大学・学問論	回数	1	1	2	4	4	
			人数	42	61	58	61	31	
2	学類等からの依頼に応じて実施した説明会		回数	3	2	3	3	3	
			人数	157	135	262	255	225	
3	教員等からの依頼に応じ、授業・ゼミ 等の中で実施した説明会		回数	11	19	21	19	12	
			人数	179	425	415	515	338	
4	図書館職員等による講習会	レポート作成, 文献 収集法に関する講習 会	回数	12	12	9	25	16	H27～LA, LeCISと協働
			人数	64	66	82	68	34	
		留学生向け図書館利 用説明会	回数	5	4	6	5	4	H26:学生サークルと協働、 H27～ LeCISと協働
			人数	55	20	33	38	24	
		職員向けの文献収集 法に関する講習会	回数	2	1	—	4	2	秘書、看護師等を対象
			人数	24	21	—	25	5	
		ランチョン・セミ ナー（総合教育棟） での講習会等	回数	—	—	—	—	6	LA, LeCIS, とぼら, 国際基幹教 育院教員と協働で実施
			人数	—	—	—	—	87	
5	データベースベ ンダー、業者等 による講習会	SciFinder	回数	1	1	1	1	1	文献・化学情報検索用データ ベース
			人数	22	52	36	44	50	
		Web of Science	回数	4	—	—	—	—	文献検索用データベース（文献 管理ソフトEndNoteも含む）
			人数	72	—	—	—	—	
		Scopus	回数	—	2	6	4	3	文献検索用データベース（文献 管理ソフトMendeley等も含 む）
			人数	—	50	106	61	45	
		EBMR(Evidence Based Medicine Reviews)	回数	1	1	1	1	1	医療情報データベース
			人数	15	15	7	6	6	
		その他、医学・保 健・心理学系の情報 検索用データベース	回数	1	2	3	2	2	CINAHL, UpToDate, PsycInfo, Biomed&Life Sciences Lectures を含む
			人数	10	38	32	8	14	
		ジャパンナレッジLib	回数	—	—	1	—	—	オンライン百科事典
			人数	—	—	7	—	—	
		新聞全文データベ ース	回数	1	—	—	2	—	New York Times in Education, 日経テレコン21
			人数	24	—	—	17	—	
6	English Hour!(留学生と日本人学生に よる英会話イベント)		回数	—	—	6	17	25	国際基幹教育院教員, LeCISと 協働
			人数	—	—	58	198	318	
7	ビブリオバトル		回数	6	6	6	6	6	国際基幹教育院教員と協働
			人数	155	125	160	171	157	

表 4-2 ラーニングアドバイザー（LA）及び留学生ラーニング・コンシェルジュ（LeCIS）
の実施内容

実施館	活動場所	活動日・時間	区分	採用人数				LeCISの出身国と人数
				H27	H28	H29	H30	
中央図書館	ポラリススタジオ	休業期間中以外 の平日13:00- 16:15	LA	5	6	7	9	中国(14)、インドネシア(6)、日本 (5)、マレーシア(2)、ベトナム、バン グラデシュ、シンガポール、カンボジ ア、タイ、ブラジル、アルゼンチン、 ロシア、リトアニア（各1）
			LeCIS	5	6	8	7	
自然科学系図書館	国際交流スタジオ		LA	4	2	3	－	
			LeCIS	5	6	9	10	

（注）採用人数については、年度途中での交代も含む。平成30年度、LAは自然科学系図書館では未実施。

表 4-3 ラーニングアドバイザー（LA）及び留学生ラーニング・コンシェルジュ（LeCIS）
の年度別対応件数

	活動館	対応件数			
		H27	H28	H29	H30
LA	中央	61	42	69	123
	自然	19	30	24	—
	小計	80	72	93	123
LeCIS	中央	30	84	53	86
	自然	27	133	28	79
	小計	57	217	81	165
合計		137	289	174	288

（注）平成27年度は10～2月のみ。平成30年度、LAは自然科学系図書館では未実施。

表 4-4 学修支援に関する課題とその対応状況

課題（※）	対応
広報活動	学修相談以外にも、LA・LeCIS・とぼらによるイベントを開催した（資料20）。
学生が何を望んでいるかを把握する	平成29年度に全学生、全大学院生を対象にLA及びLeCISの活動に関するアンケート調査を実施した（資料22）。
学生支援関係部署との連携、教員の理解・認識を得る	平成28年度にラーニング・コモンズ運営部会を学修支援検討部会と名称を改め、教員の積極的な参画を得ている。

※平成27年度金沢大学附属図書館外部評価報告書（資料4）の意見に基づく課題

表 4-5 附属図書館の学修支援関係スペースの利用状況（「図書館概要」）

中央図書館

部屋名	H26		H27		H28		H29		H30	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
AV室	291	4,359	263	2,838	266	4,007	264	3,921	281	4,079
グループスタジオ	998	6,313	875	5,099	814	4,747	808	3,709	758	3,379
オープンスタジオ （予約利用のみ）	90	1,422	57	611	43	488	42	739	59	1,069
オープンスタジオⅡ	—	—	—	—	39	356	45	762	36	568
ブックラウンジ （イベント利用のみ）	46	1,183	37	1,356	43	1,111	50	947	88	1,707
国際交流スタジオ	—	—	—	—	39	816	33	702	56	1,119
ポラリススタジオ	—	—	—	—	15	196	26	396	2	15

自然科学系図書館

部屋名	H26		H27		H28		H29		H30	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
AVホール	221	5,807	230	5,823	188	5,224	175	4,219	123	3,215
演習室	485	2,810	248	1,704	—	—	—	—	—	—
グループスタジオ	—	—	—	—	626	2,451	693	3,758	804	3,014
グループ学習室	707	2,142	717	1,922	—	—	—	—	—	—
研究個室	1,122	1,151	795	807	599	607	658	658	436	436
オープンスタジオ ・国際交流スタジオ	—	—	—	—	8	175	32	721	19	369

医学図書館

部屋名	H26		H27		H28		H29		H30	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
十全記念スタジオ	144	4,615	129	4,811	119	3,390	91	2,561	89	2,588
グループスタジオ	4,044	17,421	696	3,051	777	4,462	913	5,013	891	4,777
研究個室	1,441	1,441	678	678	559	559	865	865	276	276
オープンスタジオ （予約利用のみ）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ブックラウンジ （イベント利用のみ）	7	252	11	230	11	220	8	200	11	237

保健学類図書室

部屋名	H26		H27		H28		H29		H30	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
グループ学習室	—	—	—	—	4	10	15	50	7	26

表 4-6 図書館ボランティア「とぼら」の人数の推移（「図書館概要」）

	H26	H27	H28	H29	H30
人数	9	9	8	10	14

表 4-7 図書館ボランティア「とぼら」の主要活動記録（「こだま」より抜粋）

	主な活動
H27	とぼらトーク in オープンキャンパス とぼら選書（学生向け図書） とぼらシアター しおり作製 EU展示のお手伝い ほん和か文庫の選書ツアー
H28	とぼら選書コーナー とぼら選書ツアー とぼらトーク in オープンキャンパス とぼらおススメ映画展 とぼらシアター
H29	とぼら選書ツアー ほんわーるどかふえ
H30	映画上映会とぼらシアター とぼら『館』めぐり とぼら読書会（2回）

表 4-8 情報リテラシー教育関連講習会等の実施状況

	講習会等
H27	大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築」図書館機能強化プログラム ラーニング・サポート担当者研修 「学修支援スキルとコミュニケーション力を身につけよう」
H28	大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築」図書館機能強化プログラム ライティング支援者研修 「学生のレポート・論文の相談に対応する」

5 地域連携・社会貢献

5-1 県内公共図書館等との連携

【状況】

- 「金沢大学附属図書館中長期ビジョン」（資料 15）では、「地域住民の生涯学習を支援する空間を積極的に提供」することを戦略として記載している。
- 石川県立図書館が中心となって実施している石川県立図書館協力宅配便事業に参加し、平成 30 年度現在、県内公共図書館 34 館、県内大学図書館 5 館、他県図書館 4 館と相互貸借及び文献複写を行っている（表 5-1）。
- 石川県大学図書館協議会の会員館として、毎年協議会が主催する研修会に出席し、情報交換を行うなどして、図書館運営の参考にしている。

5-2 一般市民の利用

【状況】

- 各館への一般市民等の入館及び資料の館内閲覧については、従来から開放している。また来館者への資料の館外貸出については、従来から、北陸 3 県在住または通勤通学者、本学卒業生等に対して実施している。
- 年間貸出冊数及び入館者数の推移は図 5-1 のとおりである。
- 利用者アンケートでは、一般市民の利用に関する意見が寄せられた（資料 9 【5-2】）。

5-3 所蔵貴重資料等の提供

【状況】

- 附属図書館所蔵の貴重資料は、「金沢大学附属図書館貴重資料・準貴重資料の指定及び取扱に関する要項」（資料 24）に基づいて選定しており、中央図書館特別資料室、自然科学系図書館貴重資料室、医学図書館十全記念貴重資料室に保存している。
- 貴重資料の書籍等への転載、テレビ等での放送、展覧会等での展示のための貸出状況は、表 5-2 のとおりである。
- 貴重資料の電子化・インターネット公開については、金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアム・プロジェクトにより実施している。平成 30 年度末現在、金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアムに登録されている附属図書館所蔵資料は表 5-3 のとおりである。

5-4 イベント等

【状況】

- 平成 24 年度から平成 27 年度まで、環境学コレクションの周知のために、地域の小中学生を対象として「金沢大学附属図書館 ECO 学習コンクール」を開催し、優秀作品については、学長大賞、附属図書館長賞等の表彰を行った（表 5-4）。また、応募を考えている小中学生を対象として「なんでも相談会」を行い、毎年、本学の学生と図書館職員の協働で指導を行った。
- 県内で同様の趣旨のコンクールが開催されるようになったことや、附属小、中学校以外からの応募がほとんどないことから、先進的な取り組みとしての役割を終えたと判断し、「金沢大学附属図書館 ECO 学習コンクール」を中止した。
- 平成 28 年度からは、本学の学生と図書館職員の協働により企画・準備を行い、当日の指導は本学の学生が中心となる「金大生による“調べ学習”教室」を開催している。平成 28 年度から平成 29 年度までは、小中学生を対象とし、平成 30 年度からは、小学 4～6 年生を対象を絞った。各年の参加状況は、表 5-5 のとおりである。
- 平成 26 年度から平成 29 年度までの 4 年間、EU 講演会・金沢大学 EU 情報センター講演会を開催した。

5-5 環境への取り組み

【状況】

- 平成 27 年度及び平成 29 年度に中央図書館の空調設備の改修、及び閲覧室照明の LED 化の工事を実施し、電気使用量の削減を図った。
- 平成 25 年度から平成 28 年度まで、ECO 学習コンクールの PR の一環として、毎年 8 月に開催される「いしかわ環境フェア」に出展した。平成 28 年度の出展では、エコ関係のイベント等で活躍しているキャラクターの名前アンケートを実施し、投票の結果「エコっくま」と名付け（図 5-2）、附属図書館におけるエコや環境関係のイベント等に使用している。
- 平成 27 年度から平成 29 年度まで、「いしかわクールシェアスポット」に登録した。
- 平成 27 年度から、空調稼働期間前を中心として、うちわ・毛布の貸出サービスを開始した。
- 平成 28 年度から、古新聞でバッグをつくるワークショップ「ECO バッグを作ろう：しまんと新聞ばっぐ」を開始した。
- 平成 22 年度から収集している環境学コレクションについては、「2-8 各種コレクションの整備」で記載済である。
- 平成 22 年度から開催しているブックリユース市については、「3-5 イベント」で記載済である。
- 平成 24 年度から平成 27 年度まで実施した ECO 学習コンクールについては、「5-4 イベント等」で記載済である。

【分析・評価】

評価：■特筆すべき高い質にある □高い質にある □相応の質にある □質の向上が求められる

分析・評価コメント：

県内公共図書館等との連携においては、石川県立図書館協力宅配便事業への参加により相互貸借及び文献複写を行っているが、依頼・受付ともに高い件数で推移している。利用件数として、平成 27 年度の 425 件の依頼、平成 28 年度の 516 件の受付はこれまでの最多の件数である。

また、一般市民等の入館者数は 3 千人前後、貸出冊数は 6 千冊前後で安定しており、地域に貢献している。

さらに、所蔵貴重資料等の貸出・転載の件数も毎年 30～40 件あり、書籍等への転載、テレビ等での放送、展覧会での展示がなされている。ただし、所蔵貴重資料については、前回の外部評価においてもその利用の促進や成果の把握を求める指摘はあったが、需要も限られていることもあり有効かつ具体的な方策が見いだせなかった。引き続き検討していく必要がある。

イベント等に関して「金沢大学附属図書館 ECO 学習コンクール」や「金大生による“調べ学習”教室」を開催し、小中学生に対しても大学図書館で学ぶ機会を提供している。なお、平成 28 年度には、上記 ECO 学習コンクールの PR の一環として親しみやすい「エコっくま」のキャラクターを作成するなど、地域における図書館活動の一層の定着を試みている。

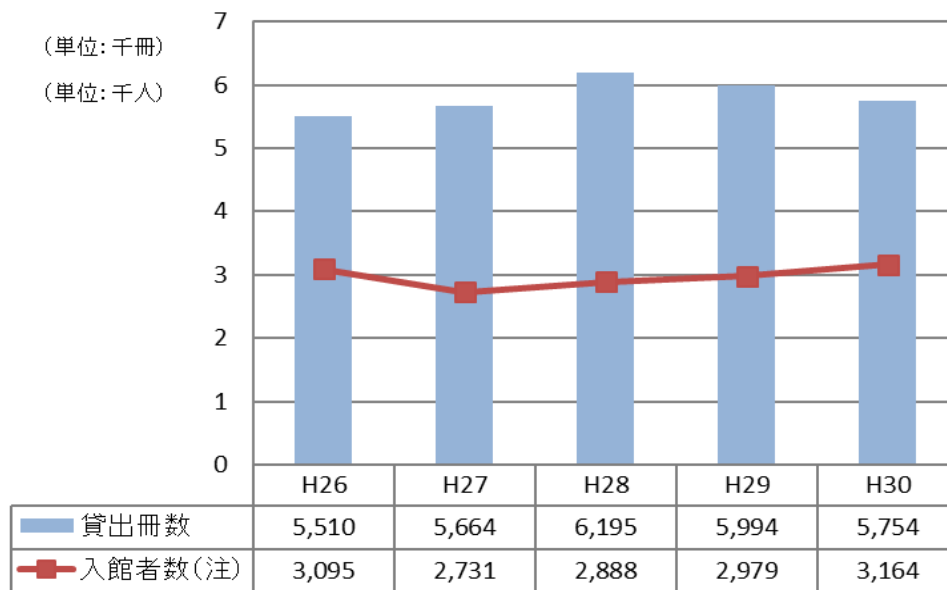
環境への取り組みについては、空調設備の改修や閲覧室照明の LED 化の工事の実施により電気使用量の削減を図りつつ、併せて「いしかわ環境フェア」への出展や「いしかわクールシェアスポット」の登録、うちわ・毛布の貸し出しサービスの実施など、積極的に行った。

以上より、中央図書館をはじめとして必ずしも利便性の高いとはいえない立地条件等を考えると、地域連携・社会貢献は十分実施できていると評価できる。

表 5-1 石川県内の公共図書館との相互利用件数の推移（相互利用係調べ）

		H26	H27	H28	H29	H30
貸借	依頼	357	425	371	294	323
	受付	337	444	516	268	456
複写	依頼	0	0	0	0	0
	受付	29	22	140	62	158

図 5-1 一般市民への貸出冊数及び入館者数の推移（「図書館概要」）



(注)「一般利用者来館受付票」記入数

表 5-2 貴重資料の貸出・転載数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30
申請件数	38	40	31	38	30

表 5-3 金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアムに登録されている
附属図書館所蔵資料数（平成 30 年度末現在）

資料名	登録件数
第四高等学校教育掛図	211
石川師範学校郷土教育アルバム	14
金沢城古写真	11
成瀬日記	57
金沢医学図書館図面	67
儀式風俗図絵	24
加賀藩年中行事図絵	39
計	423

表 5-4 ECO 学習コンクール応募数の推移

	H26	H27
小学校	29	17
中学校	19	34

表 5-5 金大生による“調べ学習”教室参加者数の推移

	H28	H29	H30
小学校	16	19	17
中学校	1	1	0
定員	設定なし	18	15

(単位：人)

図 5-2 「いしかわ環境フェア 2016」名前アンケート



(約 700 件の投票の結果「エコっくま」が 334 票を獲得)

6 経費

【状況】

- 図書館運営費の推移は図 6-1 のとおりである。
 - ・平成 27 年度に、中央図書館、自然科学系図書館、医学図書館のラーニング・コモンズの増設・新設工事、医学図書館集密書架、中央図書館集密書架等に係る施設整備費として、約 6,900 万円（施設整備費補助金間接経費）が配分された。また、自然科学系図書館自動化書庫 OS の更新等に係る経費として約 470 万円が配分された。
 - ・平成 27～29 年度に、ラーニングアドバイザー雇用経費として約 90 万円（金沢大学教育改革 GP）、平成 28～30 年度に、留学生ラーニングコンシェルジュ雇用経費として約 140 万円（金沢大学スーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業）が、毎年配分された。
 - ・平成 29 年度に、金大生による“調べ学習”教室に係る 5 万円（きょうこう奨励金）の外部資金獲得があった。
 - ・平成 30 年度に、自然科学系図書館棟の PFI 事業終了後措置分として約 410 万円が配分された。
- 本学の資料費（図書館で契約している資料）の推移は図 6-2 のとおりである。
- 図書館に配分されている資料費の推移は図 6-3 のとおりである。
- 資料費のうち、特別整備事業年次計画中の「電子ジャーナル等の拡充」経費の推移は図 6-4 のとおりである。
- 学生用図書整備費については「2-2 図書の整備」で記載済である。
- 令和元年度に、金大図書館時習基金を創設した。

【分析・評価】

評価：□特筆すべき高い質にある □高い質にある ■相応の質にある □質の向上が求められる

分析・評価コメント：

図書館運営費は、主な財源である部局基礎経費の毎年の削減により、年を追うごとに減少している。その中で、光熱水料は、節約の取り組みを行っているものの、単価上昇の影響で逆に増加傾向にあり、運営費圧迫の要因となっている。

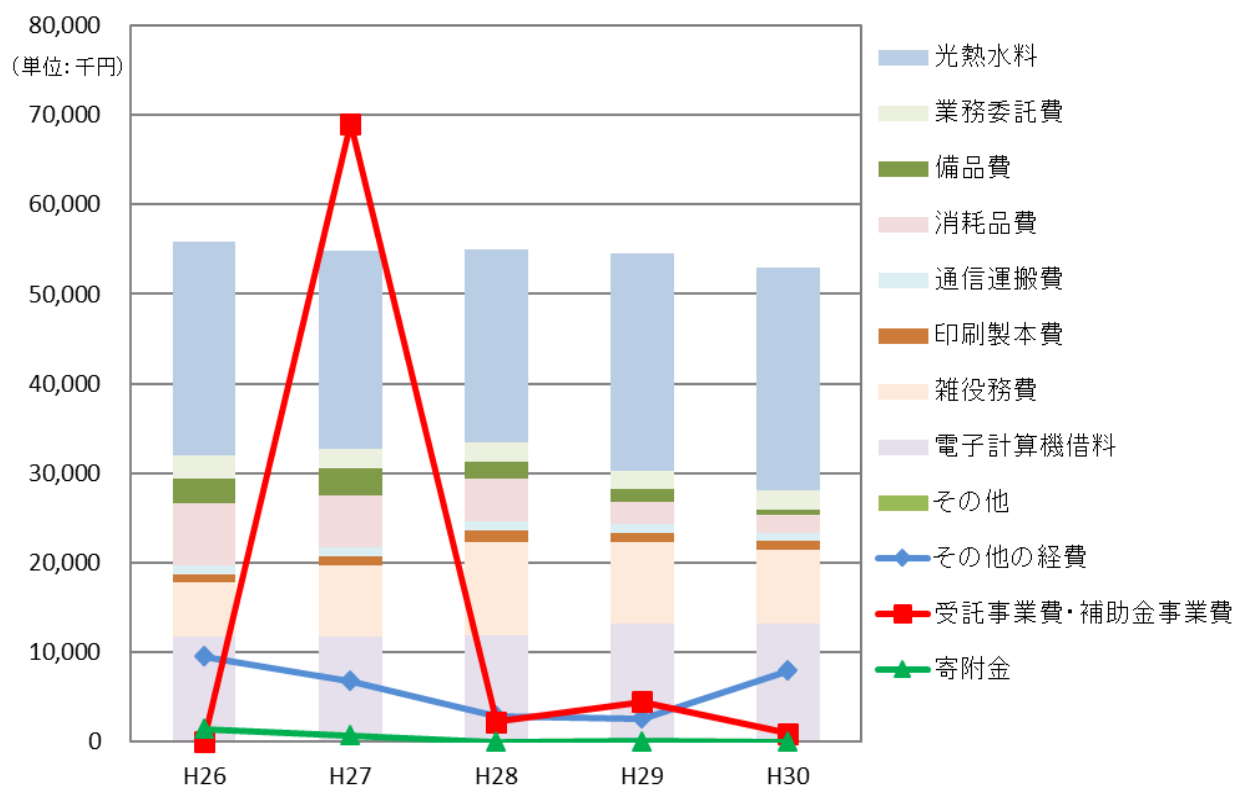
しかしながら、表 7-2 に記載のとおり、既に空調設備の更新や照明の LED 化等を実施しており、さらなる光熱水料の削減は困難であることが予想される。加えて中央図書館の老朽化対策、経年による自然科学系図書館の自動化書庫の維持費等のコスト上昇も懸念されることから、今後は費用対効果の観点からの図書館事業の見直しも視野に入れる必要がある。なお、図書館事業を今後も安定して実施していくために、学内経費にこだわらず、情報収集を積極的に行い、平成 29 年度のような外部団体による助成金等の獲得の検討が必要である。一方、令和元年度に創設した金大図書館時習

基金は、資金多様化のための一策として実績を上げることが望まれる。

全学における資料費（図書費・電子ジャーナル等を含む）は、平成 27 年度をピークに減少傾向が見られ、運営費と同様に部局基礎経費減少の影響があると考えられる。図書館配当の図書費については、平成 28 年度に 500 万円が減額された。

電子ジャーナル、二次情報データベース等の経費については、現在のところ、3 年単位で策定する学術情報基盤整備計画に基づき、全学経費・部局負担経費を併せることにより確保しているが、令和元年度の消費税率改定及び電子ジャーナルの毎年の価格上昇の影響を勘案すると、今後の購読タイトル数の維持については楽観視できない状況である。

図 6-1 図書館運営費の推移（図書館委員会決算資料）



		H26	H27	H28	H29	H30
運営費	光熱水料	23,868	22,138	21,507	24,217	24,828
	業務委託費	2,654	2,137	2,117	2,135	2,134
	備品費	2,653	2,998	1,976	1,347	672
	消耗品費	7,010	5,761	4,717	2,504	2,032
	通信運搬費	1,056	1,079	1,040	947	846
	印刷製本費	798	964	1,265	1,015	939
	雑役務費	6,117	7,990	10,488	9,113	8,245
	電子計算機借料	11,587	11,587	11,713	13,100	13,100
	その他	120	113	117	127	113
	運営費小計	55,863	54,767	54,940	54,505	52,909
その他の経費		9,552	6,737	2,829	2,586	7,939
受託事業費・補助金事業費		0	69,027	2,212	4,438	901
寄附金		1,392	702	0	50	0
総計		66,807	131,233	59,981	61,579	61,749

（注1）医学図書館の光熱水料を除く。

（単位：千円）

（注2）その他の経費： 戦略経費、設備充実費、キャンパスインテリジェント化推進経費、特別教育研究支援事業費

（注3）H27補助金事業費：施設整備費補助金間接経費（表7-2のH27参照）

図 6-2 全学の資料費（図書館執行分）の推移（「図書館概要」）

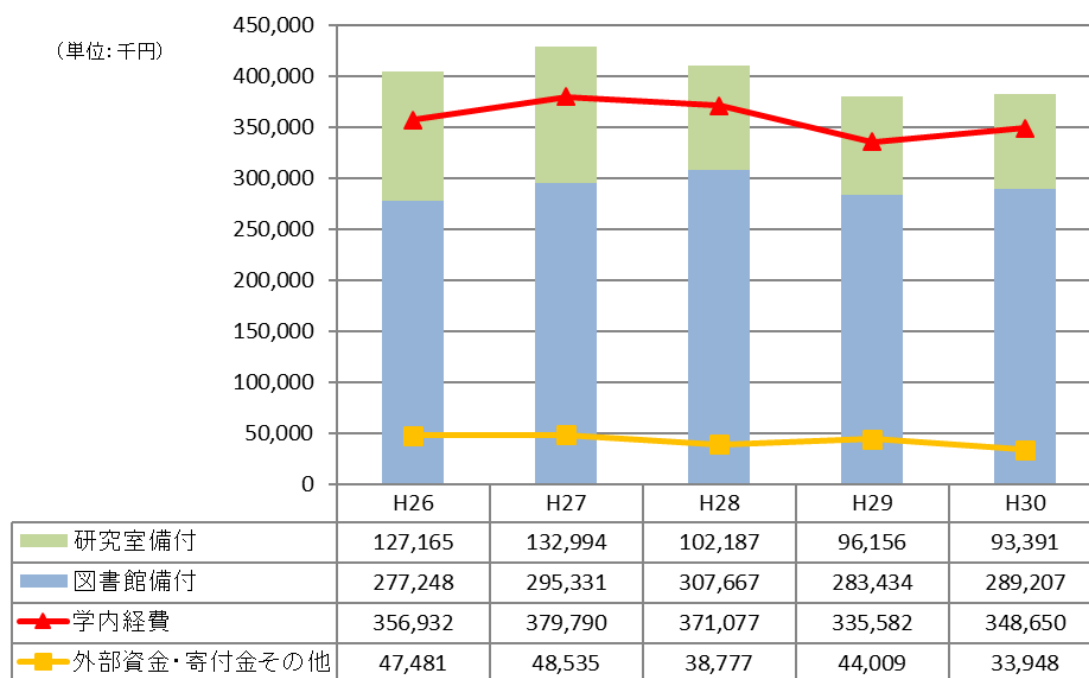


図 6-3 図書館配当図書費の推移（図書館委員会予算資料）

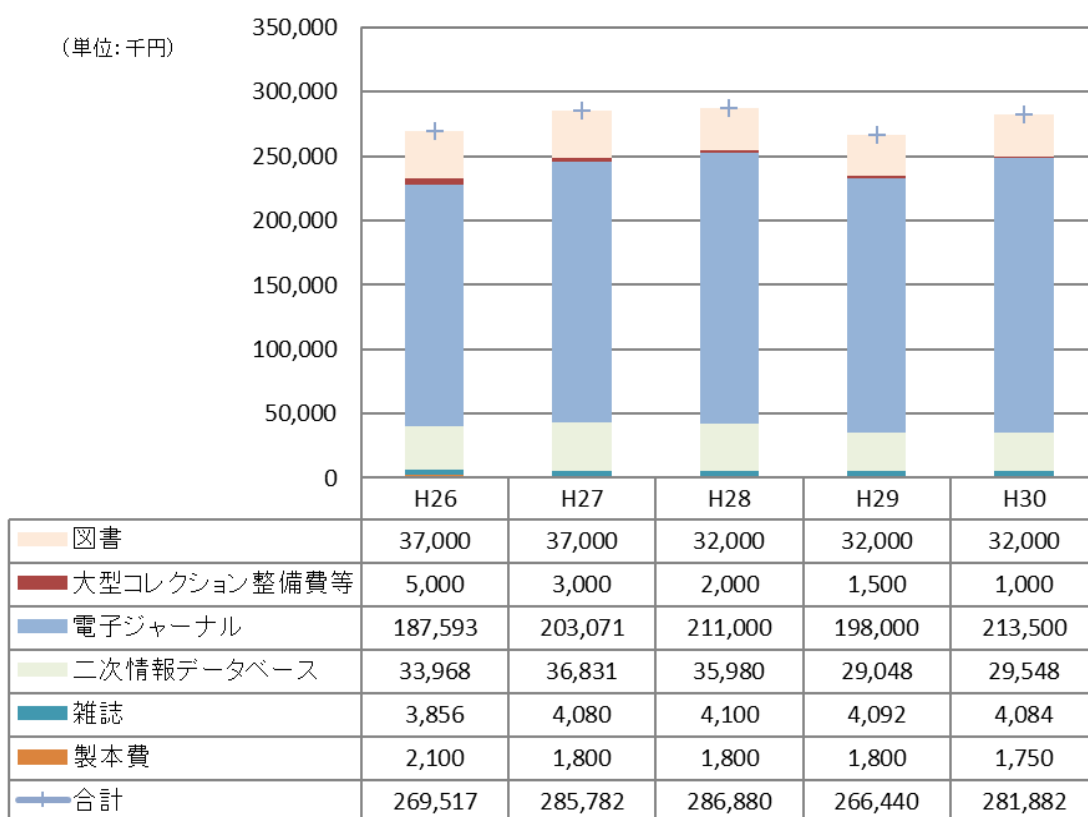
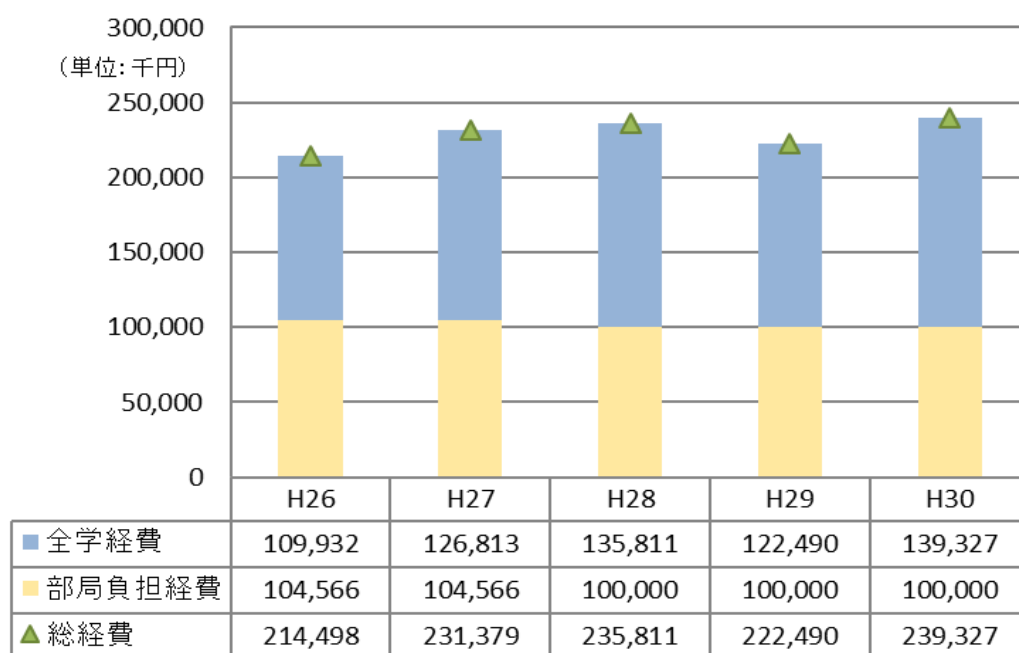


図 6-4 特別整備事業年次計画中の「電子ジャーナル等の拡充」経費の推移
(図書館委員会決算資料及び学術情報基盤整備 WG 資料)



(注) 平成 26～27 年度は電子ジャーナルバックアーカイブ経費を含む

7 施設・設備

7-1 施設・設備

【状況】

- 3館の施設の概要は表 7-1 のとおりである。
- 書架収容率は表 7-1 のとおり、大変高い状態である。団塊の世代の教員の定年退職や、ここ数年の転出、転入の多さなどから、研究室等からの多数の図書返納が継続しており、書庫の狭隘化が進行している。狭隘化対策については、日常業務と並行した作業になることもあり進展が難しい状況にあるが、平成 27 年度から平成 30 年度の 4 年間で約 4 万 6 千冊の図書を除籍し、特に平成 30 年度に約 3 万 5 千冊を除籍した。図書の除籍数は、図 7-1 のとおりである。
- 平成 27～30 年度の主な整備状況は表 7-2 のとおりである。
- 「平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価報告書」（資料 4）で挙げられた課題とその対応状況は表 7-3 のとおりである。
- 平成 27、29 年度に中央図書館の空調設備の改修工事を行った。
- 中央図書館では、電動集密書架、マイクロリーダー、放送設備等、設備の老朽化の進んでいるものがある。
- 平成 29 年度に自然科学系図書館棟の PFI 事業が終了したことに伴い、今後自動化書庫の定期的な部品交換のための財源の確保が課題となる。
- 自然科学系図書館の AV ホールは、平成 27 年度にプロジェクタの交換を行っているが、全体を統括する AV システムの更新は行われていないため、画質が悪いなどの問題がある。
- 利用者アンケートでは、「個人学修のための机・椅子の数は十分ですか」という設問に対し、「満足」「やや満足」と回答した割合は 38%であり、「やや不満」「不満」と回答した割合は 20%であった。また、「図書館内のほん和かふえ・プラタナスカフェの広さは十分ですか」という設問に対しては、「満足」「やや満足」と回答した割合は 26%であり、「やや不満」「不満」と回答した割合は 25%であった（資料 8・問 24,25）。
- 利用者アンケートでは、施設・設備について多くの意見が寄せられた（資料 9【7-1】）。

7-2 情報・ネットワーク関連機器の設備・機器等

【状況】

- 「平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価報告書」（資料 4）で挙げられた課題とその対応状況は表 7-4 のとおりである。
- 各館の利用者用機器の整備状況は表 7-5 のとおりである。
- 各館の利用者用インターネットパソコン数の整備状況は表 7-6 のとおりである。

- 利用者アンケートでは、情報・ネットワーク関連機器の設備・機器等について意見が寄せられた（資料 9【7-2】）。

【分析・評価】

評価：□特筆すべき高い質にある ■高い質にある □相応の質にある □質の向上が求められる

分析・評価コメント：

【中央図書館】

電動書架の整備により収蔵能力が上がったが、書架収容率は依然高く、図書の除籍など継続した対策が必要である。「平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価報告書」で挙げられた課題に対して、湿度管理の改善、空調・トイレ・エレベーター・学修環境・設備の老朽化に対する改修・補修が進んでいる。また、ラーニング・コモنزの増設、図書館・スタジオ・カフェ什器の整備、防犯カメラ・扇風機の増設など学修環境・設備の改善が計画的に進んでいる。空調費や照明費の削減も図られている。さらに、電動集密書架・マイクロリーダー・放送設備等の更新が今後の課題である。

【自然科学系図書館】

「平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価報告書」で挙げられた課題に対して、防犯カメラを増設した。また、ラーニング・コモنزの設置、図書館什器の整備、扇風機の増設、閲覧環境の改善、自動化書庫の修理が行われ、学修環境・設備の改善が進んでいる。AV ホールのプロジェクタを交換したが、画質改善が必要である。また、自動化書庫の定期的な部品交換が必要である。

【医学図書館】

手動式集密書架を設置して収蔵能力が上がり、書架収容率が大幅に改善した。また、ラーニング・コモنزの改装、防犯カメラを増設した。

【保健学類図書館】

図書の除籍が進んでいるが、書架収容率は依然高い。収蔵能力も含めて改善策を検討する必要がある。

中央図書館のカフェは多数の利用者から好評を得ているが、空調管理、スペースと営業時間の拡大、メニューに関する希望がある。また、図書館全体の空調管理、自動貸出返却装置・検索用 PC の更新、コンセントの増設の要望が多数あり、検討が必要である。

表 7-1 施設概要（建物、閲覧席、収蔵能力）（平成 31 年 4 月 1 日調べ）

	閲覧座席数・面積・主な施設等 *		蔵書数 **	収蔵能力 ***
中央図書館	1,096席	電動集密書架、特別資料室、特別閲覧室、AV室、グループ学習用スペース（オープNSTA ジオ、オープNSTA ジオⅡ、ポラリススタジオ、国際交流スタジオ、グループスタジオA・B、ブックラウンジ（ほん和かふえ。））、マイクロ資料室	1,203,895冊	835,550冊
平成元年竣工	9,686㎡			
平成22年3月改修			書架収容率 144%	
自然科学系図書館	694席	自動化書庫、貴重書室、AVホール、オープNSTA ジオ、国際交流スタジオ、グループスタジオ1～5、研究個室1～4	424,181冊	507,333冊
平成17年竣工	5,758㎡			
平成28年3月改修			書架収容率 84%	
医学図書館	343席	電動集密書架、十全記念貴重資料室、グループ学修用スペース（オープNSTA ジオ、国際交流コーナー、十全記念スタジオ、グループスタジオ1～4、ブックラウンジ（プラタナスカフェ））、研究個室、自習室	243,482冊	251,000冊
昭和44年竣工	3,242㎡			
平成25年3月増改修			書架収容率 97%	
保健学類図書室	58席	集密書架、グループ学習室	40,390冊	31,542冊
平成12年竣工	338㎡			
			書架収容率 128%	

* 中央図書館の面積に資料館は含まない

** 地区の部局所蔵含む

*** 25冊/0.9m（棚長）として計算

図 7-1 除籍数の推移（図書情報係調べ）

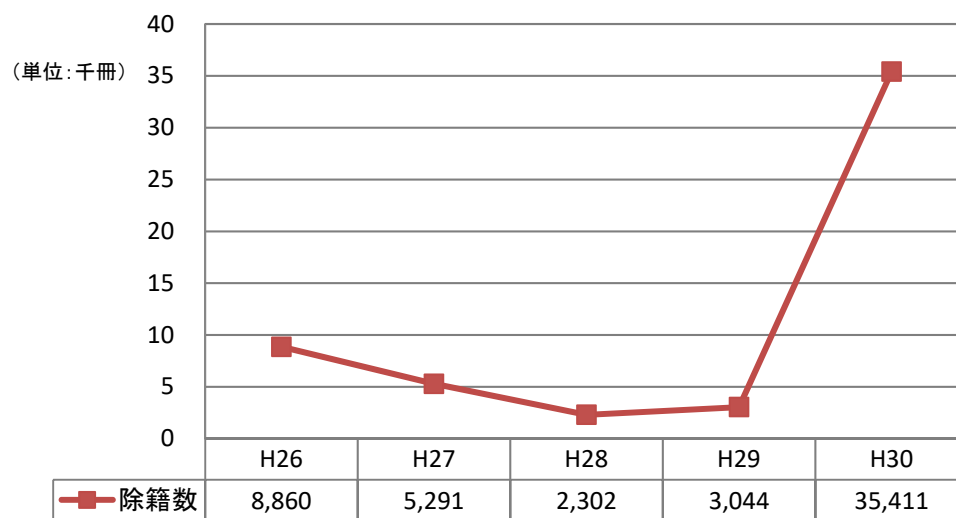


表 7-2 建物・設備等の年度別の整備状況

	中央図書館	自然科学系図書館	医学図書館
H26	ブック라운ジの音響設備の更新 3F 書架を増設 2F トイレ改修	演習室の1つを暫定的に国際交流 ルームに転用 国際交流ルーム用什器の整備	ブック라운ジにプラタナスカ フェを設置
H27	3F トイレ改修 ラーニング・コモンズ（オープン スタジオⅡ、国際交流スタジオ、 ポラリススタジオ）を増設 図書館什器の整備 空調の一部改修 B F 電動書架の段組み換え工事 閲覧席椅子の一部張替修理 防犯カメラの増設	ラーニング・コモンズ（オープン スタジオ、国際交流スタジオ、グ ループスタジオ1～5）を設置 図書館什器の整備 AVホールプロジェクタの交換 防犯カメラの増設	3F 書庫に手動式集密書架を設置 ラーニング・コモンズ（国際交流 コーナー）の増設 防犯カメラの増設
H28	吹抜天井照明を水銀灯からLEDに 交換 2F 閲覧室ブラインドの一部交換 2F 閲覧室カーペットの一部交換 閲覧席椅子の一部張替修理 扇風機の増設	防犯カメラの増設 扇風機の増設	
H29	空調の一部改修（完了） 2F 閲覧室照明を一部LEDに交換 2F 閲覧室カーペットの一部交換 エレベーター2基の改修	閲覧机デスクトップパネル（仕切 り）の設置 閲覧機の増設	
H30	AV室プロジェクタの交換 オープンスタジオ・カフェ什器の 追加		

表 7-3 建物・設備等の整備に関する課題と対応状況

課題（※）	対応・予算要求
空調費の節約	平成27年度及び平成29年度に中央図書館空調の一部改修を実施
カビ発生防止を目的とする空調設備（湿度管理）の改善	平成29年度中央図書館空調の一部改修を実施した際に、書庫やカード保管室等の除湿器を更新 平成30年度事業評価対象事業として平成29年度に「医学図書館所蔵図書のクリーニング作業」を要求したが不採択
照明費に関し電力削減が期待できるLEDに順次改修	平成28年度に中央図書館吹抜天井照明を水銀灯からLEDに交換 平成29年度に中央図書館2F閲覧室照明をLEDに交換
書庫・書架に関する経費の調達 書架収容率を越えていることの解消	平成27年度に中央図書館地階電動書架の段組み換え工事を実施 平成27年度に医学図書館3F書庫に手動式集密書架を設置 図書の除籍・廃棄を継続実施
経年による不具合	中央図書館のトイレ、ブラインド、カーペット、閲覧席椅子、エレベーター、AV室プロジェクター等の改修・補修を順次実施（表7-2参照） 平成31年度施設整備要求事業として平成30年度に「中央図書館カーペット張り替え」を要求したが不採択

※平成27年度金沢大学附属図書館外部評価報告書（資料4）の意見に基づく課題

表 7-4 情報・ネットワーク関連機器に関する全館的な課題と対応状況

課題（※）	対応・予算要求
自然科学系図書館ネットワークカメラの老朽化	平成28年度に自然科学系図書館防犯カメラを増設

※平成27年度金沢大学附属図書館外部評価報告書（資料4）の意見に基づく課題

表 7-5 各館別機器数一覧（平成 30 年度末現在）

視聴覚機器等	中央図書館	自然科学系図書館	医学図書館
マイクロリーダー	4	0	0
ビデオレコーダー	8	10	1
LD/DVD/ブルーレイプレーヤー	13	11	7
音声・拡大読書機等	2	1	2

表 7-6 各館別利用者用インターネットパソコン数の推移（「学術情報基盤実態調査」）

	H26	H27	H28	H29	H30
中央図書館	31	31	31	31	21
自然科学系図書館	24	32	32	29	29
医学図書館	29	29	29	30	30
計	84	92	92	90	80

自己点検・評価ワーキンググループ

(座長)

岩見 雅史 附属図書館長・理工研究域 生命理工学系 教授

(委員)

尾島 恭子 附属図書館副館長・人間社会研究域 学校教育系 教授
 伊藤 秀一 附属図書館副館長（平成 30 年度）・理工研究域 数物科学系 教授
 長谷川 浩 附属図書館副館長（令和元年度）・理工研究域 物質化学系 教授
 原田 憲一 医学図書館長・医薬保健研究域 医学系 教授
 杉山 欣也 図書館委員・人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授
 高橋 光信 図書館委員・理工研究域 物質化学系 教授
 塚崎 恵子 図書館委員・医薬保健研究域 保健学系 教授
 山岸 雅子 人間社会研究域 人間科学系 教授
 杉森 公一 国際基幹教育院 准教授
 久保 真一 図書館委員・情報部長
 山本 修 図書館委員・情報企画課長（平成 30 年度）
 辻田 恵 図書館委員・情報企画課長（令和元年度）
 橋 洋平 図書館委員・情報サービス課長

(活動記録)

- ・平成 31 年 3 月 14 日 平成 30 年度第 4 回図書館委員会
 （平成 31 年度附属図書館自己点検・評価実施要領、
 ワーキンググループの設置、スケジュールの承認）
- ・令和 元年 6 月 19 日 第 1 回ワーキンググループ開催
 （利用者アンケートの検討）
- ・令和 元年 7 月 利用者アンケート調査
- ・令和 元年 8～11 月 評価用データの収集
- ・令和 元年 10～11 月 評価用資料とりまとめ
- ・令和 元年 12 月 17 日 第 2 回ワーキンググループ開催
 （評価用資料、利用者アンケート結果の確認）
- ・令和 元年 12 月～令和 2 年 1 月 評価用資料による評価の実施
- ・令和 2 年 2 月 評価シートとりまとめ、報告書案作成
- ・令和 2 年 3 月 2 日 第 3 回ワーキンググループ開催
 （報告書案の検討）
- ・令和 2 年 3 月 11 日 令和元年度第 4 回図書館委員会へ報告書案提出